

2.1.67		spontaneous bleeding of the tongue	舌衄		外傷によらない舌からの出血。
2.1.68		stiff tongue	強硬舌		舌が強直して動きがのろく、ろれつが回らない。
2.1.69		limp wilting	痿軟舌		舌が弛緩して動かしにくい。
2.1.70		trembling tongue	顫動舌		舌を動かすと不随意にふるえる。
2.1.71		deviated tongue	歪斜舌		舌を伸ばしたときに左右いずれかに傾く。
2.1.72		contracted	短縮舌		舌が縮まっているようで口外に伸ばせない。
2.1.73		protruded	吐弄舌		舌を口から垂らし、舌先を伸ばしたり引っ込めたりしながら、円運動や唇をなめる動作を行う病的状態。
2.1.74		agitated tongue	舌縦		舌を伸ばしたまま、口内に戻せない。
2.1.75		protracted tongue	舌乾		舌の湿潤性がなく触るとざらざらしている。
2.1.76		dry tongue	舌乾		舌の湿潤性がなく触るとざらざらしている。
2.1.77		paralyzed tongue	麻痺舌		舌がしびれて動かない。
2.1.78		motility of the tongue	舌態		舌を自発的に動かす能力。
2.1.79		form of the tongue	舌形		形状、榮枯、老嫩、厚いか薄いか、腫脹の有無、斑点、亀裂、歯痕を指す。
2.1.80		tongue fur	舌苔		舌面上の一層の苔状物のこと。舌垢 (coating) と呼ばれ
2.1.81		fur color	苔色		舌苔の色。白、黄、灰または黒、まれに緑がある。
2.1.82		texture of fur	苔質		厚さ、湿潤性、粘性 (ねばねば度)、ざらつきなどの舌苔の性質。
2.1.83		white fur	白苔		白色の舌苔。
2.1.84		white sandy fur	白砂苔		一層の砂で覆われたような白色で乾燥した厚い舌苔。
2.1.85		yellow fur	黄苔		黄色の舌苔。
2.1.86		black fur	黒苔		黒色の舌苔で、体内の過剰な寒または極度の熱を示す。
2.1.87		gray fur	灰苔		灰色の舌苔で、臨床的意義は黒苔とほぼ同じ。
2.1.88		greenish fur	緑苔		緑色の舌苔。
2.1.89		thin fur	薄苔		舌苔の下に舌面がかすかに見える。
2.1.90		thick fur	厚苔		舌苔の下に舌面がまったく見えない。
2.1.91		rotten-curdy fur	霉醬苔		黒色および黄色みがかかった赤色の厚い舌苔。
2.1.92		moist fur	潤苔		中等度に湿った舌苔。
2.1.93		dry fur	燥苔		乾燥したように見え、触るとざらざらする舌苔。
2.1.94		dry and cracked fur	燥裂苔		湿り気がまったくなく、ひび割れがある舌苔。
2.1.95		slippery fur	滑苔		過剰な水分で湿り、つるつるした感触の舌苔。
2.1.96		slimy fur	膩苔		顆粒が密で濁りがあるねばねばした舌苔で、舌にこびりつき、剥離しにくい。greasy furとしても知られる。
2.1.97		sticky slimy fur	粘膩苔		顆粒が密で濁りがあるねばねばした舌苔で、一層の厚い濁った粘液で覆われる。
2.1.98		curdy fur	腐苔		豆腐かすのようなまばらな顆粒の舌苔で、剥離しやすい。
2.1.98	剥苔; 舌苔脱落	peeling fur	剥苔		完全または部分的に剥離できる舌苔。
2.1.98	剥苔; 舌苔脱落	peeling fur	舌苔脱落		完全または部分的に剥離できる舌苔。
2.1.99		exfoliated fur	類剥苔		舌苔が剥離でき、舌面が滑らかでなく新しい顆粒ができていくように見えるもの。
2.1.100		stained fur	染苔		しばしば飲食物や薬物で染色される舌苔。
2.1.101		curled tongue	舌卷		舌が丸まって口腔内に引っ込み、発語できない。
2.1.102		curled tongue and retracted	舌卷囊縮		舌が丸まり、壑が萎縮して体内に引っこむことで、危篤状態の患者でみられる。
2.1.103		sublingual collateral vessels	舌下絡脈		舌下の舌小帯の両側に位置する静脈。
2.2.0		Listening and Smelling Examination	聞診		
2.2.1		listening and smelling examination	聞診		四診の一つで、とくに音を聞き、臭いを嗅いで診断する。
2.2.2		listening to sounds	聞聲音		寒熱、虚実といった病性を判断するために、患者の声、呼吸、咳、嘔吐などの音を聞く診法。
2.2.3		deep turbid voice	語聲重濁		太くこもっているまたはそれ以外のはっきり聞き取れない
2.2.4		faint low voice	語聲低微		ほとんど聞き取れないほどのかすかな低い声。
2.2.5		sluggish speech	語言蹇澀		舌の緩慢な動きにより言語が乱れること。
2.2.6		sluggish tongue	舌蹇		正常な敏捷がない舌。
2.2.7		loss of voice	失音		声がかすれる、またはまったく声が出ない。
2.2.8		hoarseness	嘶嘎		低く耳障りなまたはしゃがれた声。
2.2.9		muttering	鄭聲		無意識に、とぎれとぎれに何度も繰り返すつづやくこと。
2.2.10		delirious speech	譫語		譫妄における発語障害。
2.2.11		soliloquy	獨語		他人がいてもいなくても独り言を言うこと。
2.2.12		disordered speech	錯語		失語症の一種で、患者は頻りに間違った単語を使ったり、不正確で意味のない単語の組み合わせを用いたりする。
2.2.13		sleep talking	嚙語		睡眠中に話すこと。寢言 (somniaquy) と同義。
2.2.14		manic raving	狂言		精神が錯乱し、でたらめを言うこと。
2.2.15		sighing	太息		周りに聞こえるような長い呼吸を伴う深呼吸。

2.2.16		sneezing	噴嚏		鼻が刺激され、突然周りに聞こえるほど激しく、呼吸が放出されること。
2.2.17		yawning	呵欠		口をあけて行う不随意的な吸息で、通常は疲労に対する反応。
2.2.18		panting	喘促		速く困難な呼吸。
2.2.19		wheezing	喘鳴		ヒューヒューという音を伴う呼吸困難。
2.2.20		phlegm rale	痰鳴		気道内の痰の存在により生じる異常な呼吸音。
2.2.21	咳逆；咳逆 上氣	cough with dyspnea	咳逆		気道内の気の逆流に伴う咳。cough with qi refluxとしても知られる。
2.2.21	咳逆；咳逆 上氣	cough with dyspnea	咳逆上氣		気道内の気の逆流に伴う咳。cough with qi refluxとしても知られる。
2.2.22		borborigmus	腸鳴		腸内のガスの移動によるゴロゴロと鳴る音。
2.2.23		splashing sound	振水音		膨張した胃の上で連続して聞こえる音。
2.2.24		fecal qi	矢氣		肛門から噴出するガスのこと。放屁 (flatus) と同義。
2.2.25		snoring	鼻鼾		睡眠中に生じる荒い吸気性雑音。
2.2.26		mouth odor	口臭		口腔から発生する臭い。
2.2.27		fetid mouth odor	口臭		口腔から発生する悪臭。halitosisと同義。
2.3.0		Inquiry	問診		
2.3.1		inquiry	問診		四診の一つで、愁訴および病歴について患者に質問することにより診断のための情報を得る方法。
2.3.2		inquiry about cold and heat	問寒熱		患者に熱寒の感覚を質問すること。
2.3.3	發熱；身熱	fever	發熱		正常を上回る体温の上昇または主観的に熱っぽいと感じること。
2.3.3	發熱；身熱	fever	身熱		正常体温を上回る体温の上昇または主観的に熱っぽいと感じること。
2.3.4		aversion to cold	惡寒		寒いと感じ、暖かくしても治まらないことで、寒気 (chills) としても知られる。
2.3.5		fear of cold	畏寒		寒いと感じるが、暖かくすれば治まることで、寒冷不耐 (intolerance of cold) と同義。
2.3.6		aversion to wind	惡風		風に対する強い嫌悪で、wind intoleranceとしても知られる。
2.3.7		aversion to heat	惡熱		熱に対する強い嫌悪で、heat intoleranceとしても知られる。
2.3.8		shivering	寒戰		ふるえを伴う激しい寒気。
2.3.9	惡寒發熱； 發熱惡寒	aversion to cold with fever	惡寒發熱		惡寒と同時に發熱が出現する。
2.3.9	惡寒發熱； 發熱惡寒	aversion to cold with fever	發熱惡寒		惡寒と同時に發熱が出現する。
2.3.10		fever without chills without	但熱不寒 但寒不熱		体温が上昇するが寒気は感じない。
2.3.11		high fever	壯熱		寒気を感じるが發熱はない。
2.3.12		tidal fever	潮熱		壯熱が続き惡熱を伴うが惡寒はない。
2.3.13		mild fever	微熱		潮の干満のように、定刻になると周期的に体温が上下する發熱。
2.3.14		late afternoon tidal fever	日晡潮熱		軽度の發熱で、主に裏熱による。
2.3.15		afternoon tidal fever	午後潮熱		定期的に潮が満ちるように午後3~5時になると顕著に發熱する。
2.3.16		unsurfaced fever	身熱不揚		午後になると顕著に發熱する。
2.3.17		fever worsening at night	身熱夜甚		持続する發熱で、最初は体表面の熱を感じにくいですが、長く触っていると熱を感じるようになる。濕熱の徴候。
2.3.18		steaming bone	骨蒸		日中よりも夜間に顕著に發熱する。
2.3.19		bone-steaming fever	骨蒸熱		骨または髓から発しているように思われる体内深部の主観的な感覚。
2.3.20		bone-steaming tidal fever	骨蒸潮熱		骨または髓から発していると感じる發熱。
2.3.21		vexing heat in the chest, palms and soles	五心煩熱		熱が骨から発していると感じるような潮熱。
2.3.22		heat vexation	煩熱		不安または落ち着きのなさを伴う両側の手掌、足底および胸部の熱感。five center heatとも呼ばれる。
2.3.23		vexing heat in the extremities	手足煩熱		不安または落ち着きのなさを伴う發熱で、いらいらするような熱感 (irritable heat sensation) としても知られる。
2.3.24		heat in the palms and soles	手足心熱		四肢の不快感。
2.3.25		reversal cold of the extremities	手足厥冷		手掌および足底の主観的な熱っぽい感じ。
2.3.26	手足厥冷； 厥冷；厥逆	reversal cold of the extremities	厥冷		四肢の膝および肘まで、またはそれらを越えて広がる顕著な冷えのこと。四肢の冷え (cold extremities) と同義。
2.3.26	手足厥冷； 厥冷；厥逆	reversal cold of the extremities	厥逆		四肢の膝および肘まで、またはそれらを越えて広がる顕著な冷えのこと。四肢の冷え (cold extremities) と同義。
2.3.26	手足厥冷； 厥冷；厥逆	reversal cold of the extremities	厥逆		四肢の膝および肘まで、またはそれらを越えて広がる顕著な冷えのこと。四肢の冷え (cold extremities) と同義。
2.3.27		reversal of qi	厥		(1) 突然の意識消失 (通常は短時間)、または (2) 四肢の膝および肘まで、またはそれらを越えて広がる冷えを特徴とする気の逆流。失神 (syncope) または重度の冷え (severe coldness) とも言う。

2.3.28	寒熱往來; 往來寒熱; 寒熱交作	alternating chills and fever	寒熱往來		但寒不熱と但熱不寒が交互に連続して出現する。
2.3.28	寒熱往來; 往來寒熱; 寒熱交作	alternating chills and fever	往來寒熱		但寒不熱と但熱不寒が交互に連続して出現する。
2.3.28	寒熱往來; 往來寒熱; 寒熱交作	alternating chills and fever	寒熱交作		但寒不熱と但熱不寒が交互に連続して出現する。
2.3.29		external cold and interior heat	外寒内熱		体外の寒と体内の熱が同時に存在する複合的な状態。
2.3.30		internal cold and external heat	内寒外熱		体外の熱と体内の寒が同時に存在する複合的な状態。
2.3.31		inquiry about sweating	問汗		発汗の状態について患者に質問すること。
2.3.32	多汗; 大汗	profuse sweating	多汗		暑い環境、激しい身体活動または発汗薬の服用に関連しない過剰な発汗。
2.3.32	多汗; 大汗	profuse sweating	大汗		暑い環境、激しい身体活動または発汗薬の服用に関連しない過剰な発汗。
2.3.33		spontaneous sweating	自汗		日中の過剰な発汗。激しい身体活動、暑い気候、厚着や服薬など、明らかな原因がないのに生じる。
2.3.34		night sweating	盗汗		覚醒中には生じず睡眠中にのみ生じる発汗。
2.3.35		cold sweating	冷汗		大量の発汗に伴い身体および四肢に冷えが生じる。
2.3.36		expiry sweating	絶汗		瀕死状態の患者でみられる絶え間ない大量の発汗。
2.3.37		shiver sweating	戰汗		寒戦後の発汗。
2.3.38		sweating from the head	頭汗		頭部、顔面、頸部の過剰な発汗。
2.3.39		sweating from the palms and	手足心汗		手掌および足底からの過剰な局所の発汗。
2.3.40		sweating from the hands and	手足汗		手足からの過剰な局所の発汗。
2.3.41		sweating from the heart region	心汗		前胸（心窩）部の過剰な発汗。
2.3.42		sweating from the armpits	腋汗		腋窩部からの過剰な局所の発汗。
2.3.43		genital sweating	陰汗		陰部の局所的な発汗。
2.3.44		absence of sweating	無汗		発汗の異常な欠乏または発汗が生じないこと。無汗症（anhidrosis）と同義。
2.3.45		leaking sweat	漏汗		絶え間ない発汗。
2.3.46		half-body sweating	半身汗出		上半身または下半身、右半身または左半身のみに発汗がみられること。
2.3.47		half-body absence of	半身無汗		上半身または下半身、右半身または左半身のみに発汗がみられないこと。
2.3.48		oily sweat	油汗		油のように粘り気のある汗。
2.3.49		great dripping sweat	大汗淋漓		絶え間なくしたたる異常に大量の汗。
2.3.50		lassitude of spirit	神疲		精神の活力がないこと。
2.3.51		lack of strength	乏力		体力がないこと。
2.3.52		somnolence	嗜睡; 嗜臥		夜間、日中を問わない過剰な眠気。
2.3.53	失眠; 不 寐; 不得眠	inability to sleep	失眠		睡眠不能または異常な覚醒状態。不得臥と同義。
2.3.53	失眠; 不 寐; 不得眠	inability to sleep	不寐		睡眠不能または異常な覚醒状態。不得臥と同義。
2.3.53	失眠; 不 寐; 不得眠	inability to sleep	不得眠		睡眠不能または異常な覚醒状態。不得臥と同義。
2.3.54		profuse dreaming	多夢		夢のために睡眠が頻繁に妨げられる状態。
2.3.55		sleep walking	夢遊		明らかな睡眠状態にある間に、寢床を離れ、歩き回ったり他の行動をとったりすること。
2.3.56		generalized pain	身痛		全身の疼痛。全身痛（general body ache）と同義。
2.3.57		headache	頭痛		頭部の疼痛。
2.3.58		stiffness of the neck	項強		頸部および上背部に筋収縮と硬直が生じ、動かしづらい状態。
2.3.59		headache and painful stiff nane	頭項強痛		項部の硬直と疼痛を伴う頭痛。
2.3.60		heavy-	頭重		頭が重苦しい感じ。
2.3.61		supraorbital pain	眉稜骨痛		眉稜骨（眼窩上）に感じる疼痛。
2.3.62		ear pain	耳痛		耳の疼痛。
2.3.63		chest pain	胸痛		胸部中央部または外側部の疼痛。
2.3.64		breast pain	乳房疼痛		乳房の疼痛で、通常は膨張感を伴う。
2.3.65		hypochondriac pain	脇痛		片側または両側の腋窩部から最下肋骨部にかけての疼痛。
2.3.66	脘痛; 胃痛	stomach pain	脘痛		心窩部痛（epigastric pain）と同義。
2.3.66	脘痛; 胃痛	stomach pain	胃痛		心窩部痛（epigastric pain）と同義。
2.3.67		abdominal pain	腹痛		下腹部から陰毛の生え際にかけての疼痛。
2.3.68		lower abdominal colic	疝		下腹部の重度の疝痛で、通常は便秘および尿閉に付随する。

2.3.69		back pain	背痛	上背部の疼痛。
2.3.70		lumbago	腰痛	腰部の疼痛。
2.3.71		genital pain	陰器痛	生殖器の疼痛。
2.3.72		heel pain	足跟痛	片側または両側の踵の疼痛で、起立や歩行により悪化する。
2.3.73		distending pain	脹痛	膨満感を伴う疼痛。
2.3.74		stabbing pain	刺痛	刺されるような鋭い疼痛。
2.3.75		cold pain	冷痛	冷感を伴い、温めると消失する疼痛。
2.3.76		scorching pain	灼痛	灼熱感を伴う疼痛で、灼熱痛 (burning pain) とも言う。
2.3.77		gripping pain	絞痛	胸部または腹部の急性の疼痛で、しばしば拘攣、閉塞またはねじれにより生じる。spasm and painとも呼ばれる。
2.3.78		heavy pain	重痛	重い感じを伴う疼痛。
2.3.79		pulling pain	掣痛	ある部分から他の部分に波及する疼痛。
2.3.80		dull pain	隠痛	持続する疼痛で、刺すような痛みではない。
2.3.81		empty pain	空痛	空虚感を伴う疼痛。
2.3.82		scurrying pain	竄痛	部位を変えて繰り返される疼痛。
2.3.83		oppressive pain	悶痛	重圧感を伴う疼痛。
2.3.84		aching pain	酸痛	長時間激しい身体活動を行った後に感じるような持続的な鈍い疼痛。
2.3.85		wandering pain	遊走痛	場所を変えて繰り返される四肢の関節痛。
2.3.86		pain of unfixed location	痛無定處	部位が固定されない疼痛。
2.3.87		fixed pain	固定痛	部位が固定された疼痛。
2.3.88		severe pain	劇痛	耐えがたい激しい疼痛。
2.3.89		paroxysmal pain	陣發痛	発作において繰り返し訪れる疼痛。
2.3.90		persistent pain	持續痛	途切れることなく持続する疼痛。
2.3.91	拘攣； 攣急	spasm	拘攣	正常な屈伸ができない四肢の強直と緊張。
2.3.91	拘攣； 攣急	spasm	攣急	正常な屈伸ができない四肢の強直と緊張。
2.3.92		contracture	拘急	四肢の屈伸ができない異常な筋肉の緊張。
2.3.93		contracture of the nape and neck	項背拘急	項部および背部の筋肉の拘攣および硬直。
2.3.94		contracture of the limbs	四肢拘急	四肢の筋拘縮のために屈伸が困難な状態。四肢拘縮 (acrocontracture) と同義。
2.3.95		heavy head and light feet	頭重脚輕	主観的に頭部が足部よりも重く感じ、よろよろ歩く。
2.3.96		heavy body	身重	主観的に身体が重い感じがし、動かしづらい状態。
2.3.97		generalized	身癢	全身のかゆみ。
2.3.98		numbness of the skin	肌膚麻木	皮膚の正常な局所感覚の欠如。
2.3.99		insensitivity	不仁	触られても感じないこと。麻木とも呼ばれる。
2.3.100		muscular twitching and loss of blood	筋惕肉瞤	短い痙攣性筋収縮。
2.3.101	失血； 奪血	loss of blood	失血	さまざまな大量出血に対する一般用語で、出血 (hemorrhage) と同義。
2.3.101	失血； 奪血	loss of blood	奪血	さまざまな大量出血に対する一般用語で、出血 (hemorrhage) と同義。
2.3.102	咯血； 咳血	hemoptysis	咯血	血または血の混じった痰の咯出。
2.3.102	咯血； 咳血	hemoptysis	咳血	血または血の混じった痰の咯出。
2.3.103		epistaxis	衄血	耳、鼻、歯肉、舌、皮下の出血など、非外傷性の体外の出血。
2.3.104		spitting of blood	唾血	唾液とともに血を吐出すること。
2.3.105		blood amassment	蓄血	体内に蓄積した瘀血。
2.3.106		itchy eyes	目癢	目の痒み。
2.3.107		eye pain	目痛	目の疼痛。
2.3.108		dizzy vision	目眩	めまいを伴う目昏 (かすみ眼)。
2.3.109	目昏； 視物模糊； 視瞻昏渺	blurred vision	目昏	ぼんやりした不鮮明な視力。
2.3.109	目昏； 視物模糊； 視瞻昏渺	blurred vision	視物模糊	ぼんやりした不鮮明な視力。
2.3.109	目昏； 視物模糊； 視瞻昏渺	blurred vision	視瞻昏渺	ぼんやりした不鮮明な視力。
2.3.110		double vision	視岐	1つの物が二重に見えること。
2.3.111		tinnitus	耳鳴	耳内で音が鳴り響くこと。
2.3.112		deafness	耳聾	完全または部分的な聴覚の喪失。
2.3.113	鼻塞； 鼻塞	nasal congestion	鼻塞	鼻腔の遮断。
2.3.113	鼻塞； 鼻塞	nasal congestion	鼻塞	鼻腔の遮断。
2.3.114		loss of smell	鼻不聞香臭	部分的または完全な嗅覚消失。
2.3.115		dry mouth	口乾	口腔内の津の欠如。
2.3.116		thirst	口渴	口が乾いた感じを伴う飲水渴望。
2.3.117		torpid intake	納呆	食欲が喪失し、食物に対する渴望がなく、摂取量が減少すること。食欲不振 (poor appetite) と同義。

2.3.118		swift digestion with rapid hungering	消穀善饑		過剰な食欲のために摂取量が増加し、食べた直後に再び空腹感に襲われること。
2.3.119		taste in the	口味		口腔内に何も入っていないのに味覚を感じる事。
2.3.120		bland taste in the mouth	口淡		味覚が低下し、食べても良い風味が残らないこと。
2.3.121		bitter taste in the mouth	口苦		主観的に口の中が苦く感じる事。
2.3.122		sweet taste in the mouth	口甜		主観的に口の中が甘く感じる事。
2.3.123		sour taste in the mouth	口酸		主観的に口の中が酸っぱく感じる事。
2.3.124		astringent taste in the mouth	口澀		主観的に口の中が渋く感じる事。
2.3.125		salty taste in the mouth	口鹹		主観的に口の中が塩辛く感じる事。
2.3.126		numbness in the mouth	口麻		舌がしびれ、味覚が消失すること。
2.3.127		sticky slimy sensation in the mouth	口粘膩		口の中がねばねばして不快な主観的な感覚。
2.3.128		discomfort in the throat	咽喉不利		喉が軽度に遮断されている感覚で、嚥下が妨げられる。
2.3.129		choke	噎		嚥下困難。
2.3.130		nausea	悪心		嘔吐を促す不快感。
2.3.131		blockage when swallowing	吞食梗塞		嚥下困難または嚥下不能。
2.3.132		vomiting	嘔吐		胃内容を強制的に口から吐出すること。
2.3.133		vomiting in the evening of food eaten in the morning	朝食暮吐		特徴的な胃逆流症状で、通常は朝食食べた物を夕方に吐くこと。
2.3.134		vomiting in the morning of food eaten in the evening	暮食朝吐		特徴的な胃逆流症状で、通常は夕方食べた物を朝に吐くこと。
2.3.135		dry retching	乾嘔		音を立てて不随意に嘔吐しようとするが、胃からの吐出物はない。
2.3.136		retained food	宿食		飲食物が胃腸に停滞し、一晚消化されないままの状態。
2.3.137		dietary predilection	嗜偏食		特定の風味や食物への嗜好。
2.3.138		retching	噦		音を立てて嘔吐行動をとるが、胃からの吐出物はほとんど、またはまったくない。
2.3.139		belching	噯氣		長く延びた音を立ててガスが胃から排出される。
2.3.139		belching	噯氣		長く延びた音を立ててガスが胃から排出される。
2.3.140		acid regurgitation	吞酸		胃から喉に逆流した酸味の内容物を飲み込むこと。
2.3.141		palpitations	心悸		主観的に心臓の拍動が速く力強くなったと感じること。
2.3.142		palpitations below the heart	心下悸		剣状突起より下の心窩部で感じる拍動。
2.3.143		flusteredness	心慌		神経が興奮した状態で、しばしば心悸を伴う。
2.3.144		vexation	心煩		心部の落ち着きがない感じ、熱感、重圧感。
2.3.145		vexation of deficiency type	虚煩		体内を苦しめる虚火による心煩
2.3.146		anguish in the heart	心中懊憹		心臓および胸部の煩熱および重圧感。
2.3.147		distress below the heart	心下急		軽度の疼痛と充満感を伴う、心窩部が苦しい感じ。心窩部不快感 (epigastric distress) と同義。
2.3.148	心下堅; 心下鞣	rigidity below the heart	心下堅		心窩部の異常な強直。心窩部硬直 (epigastric rigidity) と同義。
2.3.148	心下堅; 心下鞣	rigidity below the heart	心下鞣		心窩部の異常な強直。心窩部硬直 (epigastric rigidity) と同義。
2.3.149		tightness below the heart	心下支結		心煩および膨満感を伴う心窩部の閉塞感。心窩部圧迫感 (epigastric tightness) と同義。
2.3.150	心下痞堅; 心下痞鞣	stiffness and rigidity below the heart	心下痞堅		局所硬直を伴う心窩部が詰まった感じ。epigastric stiffness and rigidity と同義。
2.3.150		stiffness and rigidity below the heart	心下痞鞣		局所硬直を伴う心窩部が詰まった感じ。epigastric stiffness and rigidity と同義。
2.3.151		fullness below the heart	心下滿		心窩部の充満感。epigastric fullness と同義。
2.3.152		stiffness	痞		主観的に局所が充満して遮断された感じ。
2.3.153		stiffness and fullness	痞滿		胸部および上腹部の不快な詰まった感じおよび充満感。

2.3.154	鞭満;硬満	hardness and fullness	鞭満		主観的な充満感を伴い触ると硬い感じ。
2.3.154	鞭満;硬満	hardness and fullness	硬満		主観的な充満感を伴い触ると硬い感じ。
2.3.155	胸中痞硬; 胸下痞硬	stiffness and rigidity in the chest	胸中痞硬		胸部が詰まり息苦しい感じ。
2.3.155		stiffness and rigidity in the chest	胸下痞硬		胸部が詰まり息苦しい感じ。
2.3.156		oppression in the chest	胸悶		胸部の重圧感。
2.3.157	胸脇満;胸脇苦満	fullness in the chest and hypochondrium	胸脇満		胸部および下肋部が張って膨らんだ感じ。
2.3.157	胸脇満;胸脇苦満	fullness in the chest and hypochondrium	胸脇苦満		胸部および下肋部が張って膨らんだ感じ。
2.3.158		paraumbilical and hypochondriac	疝瘕		臍側または下肋部に局在する楕円形の腫瘤で、間欠的に鋭い痛みが生じる。
2.3.159		abdominal fullness	腹満		見たり触ったりしても拡張は感じないが腹部が膨満しているという主観的な感じ。
2.3.160		lower abdominal cramp	小腹急結		下腹部の主観的な脹満感で、通常、排尿困難となる。
2.3.161	小腹拘急; 小腹弦急	lower abdominal contracture	小腹拘急		下腹部がひきつる感じ。
2.3.161	小腹拘急; 小腹弦急	lower abdominal contracture	小腹弦急		下腹部がひきつる感じ。
2.3.162	小腹満;小腹硬満	lower abdominal fullness	小腹満		主観的な下腹部の充満感。
2.3.162	小腹満;小腹硬満	lower abdominal fullness	小腹硬満		主観的な下腹部の充満感。
2.3.163		lower abdominal numbness	小腹不仁		下腹部の感覚消失。
2.3.164		palpitations above the	臍上悸		臍上部で感じる速い拍動。supra-umbilical aortic pulsationと同義。
2.3.165		palpitations beside the	臍傍悸		臍傍部で感じる速い拍動。para-umbilical aortic pulsationと同義。
2.3.166	臍下悸;臍下悸動	palpitations below the	臍下悸		臍下部で感じる速い拍動。sub-umbilical aortic pulsationと同義。
2.3.166	臍下悸;臍下悸動	palpitations below the	臍下悸動		臍下部で感じる速い拍動。sub-umbilical aortic pulsationと同義。
2.3.167		contracture below the	臍下拘急		臍下部の筋拘縮。
2.3.168		numbness below the umbilicus	臍下不仁		臍下部の感覚消失。
2.3.169		diarrhea	泄瀉		軟便または液状便が異常なほど頻繁に排出されること。
2.3.170		spontaneous diarrhea	大便自利		瀉下によらない泄瀉（下痢）。
2.3.171	水瀉;注泄	watery diarrhea	水瀉		水様便の強制的な排出を伴う重篤な泄瀉。outpour diarrheaと同義。
2.3.171	水瀉;注泄	watery diarrhea	注泄		水様便の強制的な排出を伴う重篤な泄瀉。outpour diarrheaと同義。
2.3.172		ungratifying diarrhea	瀉下不爽		残便感の残る泄瀉。
2.3.173		undigested food in stool	完穀不化		便に未消化の食物が含まれている状態。
2.3.174	下利清穀; 完穀下利	clear-food diarrhea	下利清穀		未消化の食物を含む液状便が頻繁に排出されること。undigested food diarrheaと同義。
2.3.174	下利清穀; 完穀下利	clear-food diarrhea	完穀下利		未消化の食物を含む液状便が頻繁に腸から排出されること。undigested food diarrheaと同義。
2.3.175		abdominal	裏急		(1) 便意切迫感、(2) 男性生殖器の収縮。
2.3.176		tenesmus	裏急後重		無駄で疼痛のあるいきみ。
2.3.177		fifth-watch diarrhea	五更泄		毎日早朝（夜明け）に生じる泄瀉で、通常、腎陽虚による。晨泄（early morning diarrhea）と同義。
2.3.178		efflux diarrhea	滑泄		大便滑脱を伴う泄瀉。
2.3.179		throughflux diarrhea	洞泄		食後の泄瀉で、便中に未消化の食物を含む。
2.3.180		fulminant	暴瀉		大量の分泌液を伴う泄瀉が突然発生する病的な変化。
2.3.181		sloppy diarrhea	溇泄		形状のない軟便の泄瀉。
2.3.182		cold diarrhea	寒泄		胃腸管への寒邪の攻撃により生じる泄瀉。
2.3.183		soggy diarrhea	濡泄		旺盛な湿によって脾が損傷することにより生じる泄瀉。
2.3.184		swill diarrhea	飧泄		未消化の食物を含む水様便を特徴とする泄瀉。
2.3.185		sloppy stool	便溇		形状のない軟便の排出。軟便（loose stool）と同義。

2.3.186		stool sometimes sloppy and sometimes bound	瀉結不調		さまざまな硬さの便。
2.3.187		stool containing pus and blood	便膿血		便とともに血、膿、粘液が排出されることで、通常、赤痢を示す。
2.3.188		hard bound stool	大便秘結		排出困難な硬い便。
2.3.189		dry stool	大便乾燥		水分をほとんど含まない排出困難な便。
2.3.189		dry stool	燥屎		水分をほとんど含まない排出困難な便。
2.3.190		fecal	大便滑脱		排便を制御できず、便が不随意に排出される状態。
2.3.191		spontaneous urination	小便自利		自発的な排尿。
2.3.192	小便難；癱閉	difficult urination	小便難		排尿困難または無尿。
2.3.192	小便難；癱閉	difficult urination	癱閉		排尿困難または無尿。
2.3.193		inhibited urination	小便不利		排尿が困難で、通常はごく少量しか排尿できない。排尿困難 (dysuria) と同義。
2.3.194		urinary incontinence	小便失禁		排尿を随意に制御できない状態。
2.3.195		frequent	小便頻數		排尿回数が増加。
2.3.196		difficult painful urination	小便澁痛		排尿が容易でなく痛みを伴う状態。
2.3.197		turbid urine	小便渾濁		米のとぎ汁または油脂のように濁った尿。
2.3.197		turbid urine	尿濁		米のとぎ汁または油脂のように濁った尿。
2.3.198		dribbling	小便淋漓		尿線を描けず、ぼたぼたと落ちる尿。
2.3.199		reddish yellow urine	小便黄赤		暗黄色または赤色の尿。
2.3.200		enuresis	遺尿		睡眠中の不随意な排尿。
2.3.201		impotence	陽痿		男性の性交能の欠如。
2.3.202		poor libido	性欲淡漠		性的満足を得たいという欲求の減退。性欲減退 (low libido) と同義。
2.3.203		dreaming of intercourse	夢交		性交する夢を見ること。
2.4.0		Palpation	切診		
2.4.1		palpation	切診		四診の1つで、手や指で体表を触ったり押したりすること。
2.4.2		pulse diagnosis	脈診		診断のための脈の診察。
2.4.3		take the pulse	切脈		指先の感覚で脈拍を調べること。
2.4.4		pulse condition	脈象		診察時に触れた脈の状態。
2.4.5		disease correspondences of the pulse	脈象主病		特定の種類の脈が特定の疾病を示すこと。
2.4.6		three positions and nine indicators	三部九候		(1) 脈診に用いる頭部、上肢、下肢それぞれにある上、中、下の動脈、(2) 手首の橈骨動脈を寸、関、尺の3部に分け、それぞれ軽く押さえて浮脈 (表層部)、少し力を入れて押さえて中脈 (中間部)、強く押さえて沈脈 (深部) を把握
2.4.7	寸口；氣口	wrist pulse	寸口		手首で触れる橈骨動脈の拍動。
2.4.7	寸口；氣口	wrist pulse	氣口		手首で触れる橈骨動脈の拍動。
2.4.8		wrist pulse-taking method	寸口診法		手首で橈骨動脈の脈をとる方法。
2.4.9		cun/inch, guan/bar and chi/cubit	寸關尺		脈を感じとるために橈骨動脈を3部に分けた名称。関は手首の橈骨茎状突起のちょうど中心部で、医師が中指の先を当てる場所、寸はその遠位側で、医師が示指を当てる場所、尺は近位側で医師が薬指を当てる場所である。
2.4.10		pulse on the back of the wrist	反關脈		橈骨動脈の解剖学的異常で、このため手首の背側で脈に触れる。
2.4.11		oblique-running pulse	斜飛脈		橈骨動脈の解剖学的異常で、このため尺部から手背部外側に向かう脈に触れる。
2.4.12		carotid pulsation	人迎		頸動脈の拍動で、喉頭隆起のそばで容易に触れる。
2.4.13		anterior tibial	趺陽脈		足甲部で容易に触れる動脈の拍動。
2.4.14		normal pulse	平脈		正常な人の脈。
2.4.15		morbid pulse	病脈		病的な変化を示す脈。
2.4.16		stomach, vitality and root	胃，神，根		正常な脈象の3つの特徴：正常な脈は規則正しく滑らかで調和がとれており、胃気存在を示す。柔和で力強いものは神が存在していることを示す。脈を沈取できる (深部で脈に触れられる) ものは根の存在を示す。
2.4.17		finger technique	指法		指で脈診を行う方法。
2.4.18		pulse-taking with finger-tips	指目		指の先端のみで脈に触れる脈診法の一形態。
2.4.19		finger	布指		脈診における指の位置。
2.4.20		lifting, pressing and searching	擧，按，尋		脈をとるときに3種類の手の動かし方。
2.4.21		pushing and searching	推尋		脈診のために指を押して動かすこと。
2.4.22		pressing with one finger	單按		1本の指で3部の脈を1部ずつとること。

2.4.23		simultaneous palpation	總按		3本の指で3部の脈を同時にとること。
2.4.24		vessel qi	脈氣		脈を流れる氣。
2.4.25		tranquil pulse	脈靜		疾患の過程で温和になる脈。通常は状態の改善を示す。
2.4.26		agitated pulse	脈躁		速くて慌ただしくなる脈。通常は状態の悪化を示す。
2.4.27		fulminating pulse	脈暴出		感じにくかった脈が突然脈打つこと。通常は危篤状態を示
2.4.28		pulse bereft of stomach qi	脈無胃氣		脈に通常のリズム、頻度、一定性がなくなった状態で、胃氣の欠如を示す。
2.4.29		floating pulse	浮脈		浅表部にある脈で、軽く押さえると拍動を感じるが、強く押さえると拍動が弱まる。
2.4.30		sunken pulse	沈脈		深部にある脈で、強く押さないと拍動が感じられない。deep pulseとも呼ばれる。
2.4.31		slow pulse	遅脈		医師の1呼吸周期当たり4回未満拍動する脈。徐脈 (bradycardia) と同義
2.4.32		rapid pulse	數脈		医師の1呼吸周期当たり5~6回以上拍動する脈。頻脈 (tachycardia) と同義
2.4.33		surging pulse	洪脈		勢いのある波のように、来るときは力強く、去るときは力が弱まる脈。flooding pulseとも呼ばれる。
2.4.34		fine pulse	細脈		絹糸のように細く、まっすぐで柔らかく弱い。強く押さえると常に拍動がはっきりと感じとれる脈。thin/thready pulseとも呼ばれる。
2.4.35		vacuous pulse	虚脈		弱く空虚な脈の一般用語。
2.4.36		replete pulse	實脈		3部 (寸関尺) すべてで力強い拍動を感じられる脈の一般用語。力強い脈 (forceful pulse) とも呼ばれる。
2.4.37		long pulse	長脈		脈来が長く、寸、関、尺の部位を超える脈。
2.4.38		short pulse	短脈		脈来が短く、関でのみ感じられる脈。
2.4.39		slippery pulse	滑脈		ガラス玉が板の上を転がるように脈が滑らかに去来する。
2.4.40		rough pulse	澁脈		ナイフで竹を削るときのように、脈の去来が滑らかでなく、細小で、遅く揺れながら拍動する。
2.4.41		string-like pulse	弦脈		楽器の弦に触れたような、まっすぐで長く、張りつめた脈。
2.4.42		tight pulse	緊脈		ひもをピンと張った感じの脈。
2.4.43		soggy pulse	濡脈		細い浮脈で、軽く押さえると拍動が感じられ、強く押さえると弱くなる。
2.4.44		moderate pulse	緩脈		医師の1呼吸周期当たり4回拍動する脈で、均一で調和的。
2.4.45		relaxed pulse	緩脈		弛緩した脈。
2.4.46		faint pulse	微脈		糸のように細く柔らかい脈で、はっきり感じとれない。
2.4.47		weak pulse	弱脈		柔らかく細い沈脈で、力強くない。
2.4.48		dissipated pulse	散脈		軽く押さえると散漫で細く感じられ、強く押さえるとはっきりしなくなる脈。
2.4.49		hollow pulse	芤脈		浮遊性で大きく柔らかく、空洞を感じる脈。
2.4.50		drumskin pulse	革脈		太鼓の表面に触れたように、硬く空洞を感じる脈。
2.4.51		firm pulse	牢脈		幅広く力強い張りつめた沈脈で、強く押さえないと感じられない。
2.4.52		hidden pulse	伏脈		骨まで押さえないと拍動を感じられない脈で、沈脈よりも深い部位にあるか、もしくは完全に隠れている。
2.4.53		stirred pulse	動脈		豆が弾むような素早い発作的な脈で、滑りやすく、速く、力強い。
2.4.54		intermittent pulse	代脈		中等度に弱い脈で、規則的に停止する。
2.4.55		bound pulse	結脈		中等度に弱い脈で、不規則に停止する。
2.4.56		skipping pulse	促脈		不規則に中断する數脈。
2.4.57		large pulse	大脈		正常よりも振幅の大きい、幅広い脈。
2.4.58		soft pulse	軟脈		正常よりも柔らかく感じられる脈。
2.4.59		racing pulse	疾脈		1呼吸当たり7回以上拍動する脈。
2.4.60		strange pulse	怪脈		危篤状態の前兆となる特殊な脈。
2.4.61		true visceral	眞臟脈		臟氣の消耗を示す脈象。
2.4.62		pecking sparrow pulse	雀啄脈		雀が餌をついばんでいるように、停止と開始のリズムが不規則な切迫した數脈。
2.4.63		seething cauldron pulse	釜沸脈		すべて外側に向かい、内側に向かう動きのない極端に速い浮脈。bubble-rising pulseとしても知られる。
2.4.64		waving fish pulse	魚翔脈		存在しているようにも、していないようにも思える、魚が水中を動き回っているような脈。
2.4.65		darting shrimp pulse	蝦遊脈		ほとんどわからない間にやって来て、パッと飛び跳ねて去ってゆく、機敏に動く海老のような脈。
2.4.66		leaking roof	屋漏脈		雨漏りのように、脈来が長く不規則な脈。
2.4.67		untwining rope pulse	解索脈		結合していない縄のように、緩くもなくきつくもない不規則なリズムの脈。
2.4.68		flicking stone pulse	彈石脈		指で石を弾くような拍動が感じられる沈・実脈。
2.4.69		upturned knife pulse	偃刀脈		刃が上向きのナイフのような脈、すなわち、細・弦・極端な緊脈。
2.4.70		spinning bean pulse	轉豆脈		豆を回転させたときのように、行ったり来たりしてつかまえないく脈。
2.4.71		confused skinning pulse	麻促脈		極端に細くかすかな脈で、切迫し、飛び飛びで進み、混沌としている。
2.4.72		anomalous pulse	離經脈		出産直前の妊婦における脈象の突然の変化。

2.4.73		body palpation	按診		手または指で体表面を触れて診察すること。
2.4.74		abdominal examination	腹診		触ったり押ししたりすることによる胸部および腹部の診察。診断の際には、罹患状態を判断するため、他の診察法と組み合わせる。
2.4.75		cubital skin examination	診尺膚		前腕部と手の診察。肌触り、筋肉の発達、四肢温を判断する。
2.4.76		apical impulse examination	診虚裏		心尖拍動の診察。胃気および宗気の状態を判断する。
2.4.77		tapping examination	叩撃法		骨折または骨疾患の診察。肢の遠位部を優しく叩きながら縦方向に力をかける。
2.4.78		acupuncture point palpation	按腧穴		経穴部位での体表の切診。対応する臓器の状態を反映する。
2.4.79		seven malign signs	七惡		外部病変の予後不良を示す7つの徴候。すなわち、心不良、肝不良、脾不良、肺不良、腎不良、臓の悪化、氣と血の消
2.4.80		five benign signs	五善		外部病變の予後良好を示す5つの徴候。すなわち、心良好、肝良好、脾良好、肺良好、腎良好。
2.5.0		Eight Principle Pattern Identification/Syndrome Differentiation	八綱辨證		
2.5.1		Yin-Yang Pattern Identification/Syndrome Differentiation	陰陽辨證		陰陽学説に基づく、陰に関する証（裏証、寒証、虚証）と陽に関する証（表証、熱証、実証）の分類。
2.5.2		yin pattern/syndrome	陰證		裏証、寒証、虚証の総称で、抑制、機能低下、静止・暗い象、内側・下方の症状、および陰の病邪による罹患状態を有
2.5.3		yang pattern/syndrome	陽證		表証、熱証、実証の総称で、興奮、機能亢進、運動・明るい象、外側・上方の症状、および陽の病邪による罹患状態を有
2.5.4		pattern/syndrome of yin-yang disharmony	陰陽失調證		陰陽の平衡が崩れている証。
2.5.5		yang damage pattern/syndrome	傷陽證		傷陽を特徴とする証で、裏における陰寒が旺盛であること、寒性薬の過度の使用、過剰な発汗または泄瀉など、さまざまな原因で生じる。通常、畏寒、面色蒼白、自汗、四肢の冷えおよび昏厥が発現し、脈がほとんど感じられないことさえあ
2.5.6		yin damage pattern/syndrome	傷陰證		傷陰を特徴とする証で、しばしば熱邪の侵襲が原因で、または肝・腎氣の障害を伴う進行した熱病症例で生じる。通常、低熱、手掌および足底の熱感、るいそう、口渇、頬部潮紅、乾燥した鮮紅色の舌、および細く弱々しい数脈が発現する。
2.5.7		yin deficiency pattern/syndrome	陰虚證		陰津および陰精の虚により生じ、陽を抑制できなくなる証で、通常、るいそう、めまい、耳鳴、口および喉の乾燥、便秘、暗黒色の尿、午後の発熱、頬部潮紅、盗汗、少量の舌苔を伴う紅舌および数・細脈が発現する。漢方では、陰証と虚証の組み合わせとして理解される。
2.5.8		yang deficiency pattern/syndrome	陽虚證		陽氣の虚により生じ、温め活性化する力の低下を伴う証で、寒冷不耐、四肢の冷え、自汗、泄瀉、長時間の清澄尿の排出、淡白舌、および弱・沈脈が発現する。漢方では、陽証と実証の組み合わせとして理解される。
2.5.9		pattern/syndrome of dual deficiency of yin	陰陽兩虚證		臓腑の陰津および陽氣の両方の虚により生じる証で、通常、めまい、耳鳴、倦怠感、四肢の冷さを伴う悪寒または胸部、手掌、足底の煩熱、心悸、腰痛、乾燥した淡白舌、および数・弱脈が発現する。
2.5.10		pattern/syndrome of yin deficiency with internal heat	陰虚内熱證		陰津の虚および体内の熱により生じる証で、通常、持続性の低熱または午後潮熱、胸部、手掌および足底の熱感、頬部潮紅、盗汗、飲水欲求を伴う口乾、短時間の暗黒色の尿の排出、便秘、潤いのない紅舌および数・細脈が発現する。
2.5.11		pattern/syndrome of yin deficiency with effulgent fire	陰虚火旺證		陰津の虚により火が燃えさかる証で、心煩、失眠、喉および口の乾燥、盗汗、夢精、頬部潮紅、骨蒸潮熱、乾燥して固まった便、短時間の黄色尿の排出、または咯血、衄血、潤いのない紅舌または舌の潰瘍および数・細脈が発現する。
2.5.12		pattern/syndrome of yin deficiency with yang hyperactivity	陰虚陽亢證		陰津の虚および陽の活動亢進の証で、潮熱、盗汗、頬部潮紅、めまい、目昏、煩躁、失眠、少量の舌苔を伴う紅舌および数・細脈が発現する。
2.5.13		pattern/syndrome of yin deficiency with fluid depletion	陰虚津虧證		陰津の虚の証で、激しい口渇、皮膚の乾燥、落ちくぼんだ目、短時間の黄色尿の排出、乾燥して固まった便、胸部、手掌および足底の煩熱、るいそう、盗汗、少量の舌苔を伴う紅舌および数・細脈が発現する。
2.5.14		pattern/syndrome of yin deficiency with water retention	陰虚水停證		陰津の虚と水停（水の停滞）が合併した証で、四肢の局所水腫、乏尿、喉および口の乾燥、胸部、手掌および足底の煩熱、便秘、少量の舌苔を伴う紅舌および数・細脈が発現する。
2.5.15		pattern/syndrome of yin deficiency and dampness-heat	陰虚濕熱證		陰津の虚と湿熱の閉塞が合併した証で、低熱、盗汗、午後の頬部潮紅、胸部、手掌および足底の煩熱、口の中が苦く油っぽい、四肢疼痛、黄・膩苔のある紅舌および数・細脈が発現する。

2.5.16		pattern/syndrome of yin deficiency and blood stasis	陰虛血瘀證		陰津の虚と血瘀が合併した証で、胸部、手掌および足底の煩熱、喉および口の乾燥、午後の低熱、局所刺痛、血餅の混じった暗黒色の血の咯出、舌の紫斑、粗い（むらのある）細脈が発現する。
2.5.17		pattern/syndrome of yang deficiency with	陽虛氣滯證		陽虚による氣滯の証で、悪寒、四肢の冷え、面色蒼白、胸部、心窩部、腹部の疼痛を伴う膨満、腹鳴、便澆、長時間の清澄尿の排出、淡白・胖大舌および遅・沈・弱脈が発現す
2.5.18		pattern/syndrome of yang deficiency with damage	陽虛濕阻證		陽氣不足による湿の閉塞および氣化の障害の証で、悪寒、動かしにくい四肢、水腫、小便不利、便澆、摂食量減少および腹部膨満、白・滑苔を伴う膨らんだ淡白舌および遅・沈・弱脈が発現する。
2.5.19		pattern/syndrome of yang deficiency with water flood	陽虛水泛證		脾胃の陽虚により体内の水分が停滞するときに生じる証で、通常、全身の水腫、小便不利、心悸、喘、四肢の冷えを伴う悪寒、腹部膨満、濡泄、白・滑苔を伴う膨らんだ淡白舌および遅・沈・弱脈が発現する。
2.5.20		pattern/syndrome / of yang deficiency with congealing	陽虛痰凝證		陽氣不足と凝結した痰が合併した証で、悪寒、四肢の冷え、めまい、嗜睡、大量の痰を伴う胸悶、肥満、または癭、癰癤、乳房結節、関節の腫大と強直、膩苔および滑脈が発現する。
2.5.21		pattern/syndrome of yang deficiency with congealing cold	陽虛寒凝證		悪寒、四肢の冷え、温めると軽減する胸部、心窩部、腹部、手首および膝の疼痛を特徴とする証で、女性では月経の遅れ、月経痛、暗黒色の月経および血餅の排出が認められ、白・滑苔を伴う淡白・胖大舌および遅・沈脈が発現する。
2.5.22		yin-blood depletion pattern/syndrome	陰血虧虚證		るいそう、面色萎黄、低熱、頰部潮紅、四肢のしびれ、めまい、目昏、心悸、失眠、少量の舌苔を伴う紅舌および数・細脈を特徴とする証。
2.5.23		pattern/syndrome of yin exuberance with yang debilitation	陰盛陽衰證		盛んな陰寒により陽氣が衰退するときに生じる証で、悪寒、四肢の冷え、長時間の清澄尿の排出、泄瀉、または冷痛のため暖かさを好む、白苔を伴う淡白舌および遅・沈脈が発現する。
2.5.24		pattern/syndrome of exuberant yin repelling yang	陰盛格陽證		盛んな内寒のために陽氣が体外に押しやられる証で、体内に真寒、体外に仮熱があるという徴候を引き起こす。
2.5.25		pattern/syndrome of detriment to yin affecting	陰損及陽證		長期の陰津の枯渇により傷陽が引き起こされるときに生じる証で、結果的に陰陽の両方が虚となる。この場合、陰虚が先に起こり、陽虚がそれに続く。
2.5.26		pattern/syndrome of detriment to yang affecting	陽損及陰證		長期の陽氣の衰退により傷陰が引き起こされるときに生じる証で、結果的に陰陽の両方が虚となる。この場合、陽虚が先に起こり、陰虚がそれに続く。
2.5.27		pattern/syndrome of yin exhaustion and yang	陰竭陽脱證		陰精の消耗に続き亡陽が出現する危篤の証。
2.5.28		pattern/syndrome of clear yang failing to ascend	清陽不升證		めまい、目昏、耳鳴および聴覚障害、四肢が温まらない悪寒、倦怠感および乏力、厭食、便澆、白苔を伴う淡白舌、および緩・弱脈を特徴とする証。
2.5.29		upcast yang pattern/	戴陽證		下半身の真寒と上半身の仮熱を示す危篤の証で、面色蒼白と周期的な頰部潮紅を特徴とする。
2.5.30		yin collapse pattern/ syndrome	亡陰證		陰津の消耗により生じる重篤な証で、口渇および冷たい飲料水の渴望、顔面潮紅、落ち着きのなさ、舌乾および数・細脈が発現する。
2.5.31	亡陽證；陽脱證	yang collapse pattern/syndrome	亡陽證		陽氣の消耗により生じる重篤な証で、蒼白、したたり落ちる冷汗、四肢の冷え、湿った蒼白舌が発現し、脈はほとんど触れない。
2.5.31	亡陽證；陽脱證	yang collapse pattern/syndrome	陽脱證		陽氣の消耗により生じる重篤な証で、蒼白、したたり落ちる冷汗、四肢の冷え、湿った蒼白舌が発現し、脈はほとんど触れない。
2.5.32		Exterior-Interior Pattern Identification/ Syndrome Differentiation	表裏辨證		体外（表）か体内（裏）か、表在するか深在するかといった疾病部位による証の分類。
2.5.33		exterior pattern/ syndrome	表證		主に体外を冒す外感の早期に現れる証の一般用語で、卒発、悪寒または悪風、発熱、頭痛、身痛、薄苔および浮脈を特徴とする。
2.5.34		interior pattern/ syndrome	裏證		臟腑、氣血または髓など、体内に疾病が存在することを示す証の一般用語。
2.5.35		half-exterior half-interior pattern/ syndrome	半表半裏證		身体の表と裏の間にある苦痛により生じるさまざまな証で、寒熱往来、胸部部の充満と窒息感、口苦、喉の乾燥、悪心と食欲不振、および弦脈が発現する。
2.5.36	表寒證；風寒束表證	exterior cold pattern/ syndrome	表寒證		風寒が表に侵入するときに生じる証で、微熱を伴う著しい悪寒、頭痛、身痛、無汗、薄・白苔および緊・浮脈を特徴とする。 pattern/ syndrome of wind-cold fettering the exterior と同義。
2.5.36	表寒證；風寒束表證	exterior cold pattern/ syndrome	風寒束表證		風寒が表に侵入するときに生じる証で、微熱を伴う著しい悪寒、頭痛、身痛、無汗、薄・白苔および緊・浮脈を特徴とする。 pattern/ syndrome of wind-cold fettering the exterior と同義。

2.5.37	表熱證；風熱犯表證；風熱襲表證	exterior heat pattern/syndrome	表熱證		風熱が表に侵入するとき生じる証で、軽度の悪風・悪寒を伴う著しい発熱、頭痛、喉の痛み、発汗および口渴、薄・黄苔および数・浮脈を特徴とする。pattern/ syndrome of wind-heat invading the exteriorと同義
2.5.37	表熱證；風熱犯表證；風熱襲表證	exterior heat pattern/syndrome	風熱犯表證		風熱が表に侵入するとき生じる証で、軽度の悪風・悪寒を伴う著しい発熱、頭痛、喉の痛み、発汗および口渴、薄・黄苔および数・浮脈を特徴とする。pattern/ syndrome of wind-heat invading the exteriorと同義
2.5.37	表熱證；風熱犯表證；風熱襲表證	exterior heat pattern/syndrome	風熱襲表證		風熱が表に侵入するとき生じる証で、軽度の悪風・悪寒を伴う著しい発熱、頭痛、喉の痛み、発汗および口渴、薄・黄苔および数・浮脈を特徴とする。pattern/ syndrome of wind-heat invading the exteriorと同義
2.5.38		exterior deficiency pattern/syndrome	表虚證		身体の抵抗が弱まっているときに風の攻撃を受けて生じる表証の一種で、風の不耐 (intolerance of wind)、持続性の発汗、発熱、頭痛、薄・白舌および浮・緩脈が発現する。
2.5.39		exterior excess pattern/syndrome	表實證		発熱、悪寒、頭痛および身痛、力強いまたは緊・浮の脈および無汗がみられる表証で、体表部では寒の攻撃を受けているが、患者の衛気は障害されていないことを示す。
2.5.40		pattern/syndrome of wind-dampness assailing the exterior	風濕襲表證		風濕が体表部に侵入するために生じる証で、重く動かしにくい四肢、頭重を伴うめまい、悪寒、発汗後にも消失しない発熱、胸悶、飲水渴望がない、白・膩苔および濡・緩脈を特徴とする。
2.5.41		pattern/syndrome of summerheat-dampness assailing the exterior	暑濕襲表證		暑濕 (summer-dampness) が体表部を攻撃するために生じる証で、発熱、軽度の悪風・悪寒、疲労および動かしにくい体、何かを巻き付けられたような頭重、垢に覆われた顔 (grimy face)、口渴および心煩、黄・膩苔を伴う紅舌および数・濡脈が発現する。
2.5.42		defense-exterior insecurity pattern/syndrome	衛表不固證		畏寒、自汗、短気、乏力、淡白舌および弱脈が発現する証。
2.5.43		interior cold pattern/syndrome	裏寒證		臟腑の陽気虚または外寒が直接、体内で、または体内を通じて攻撃するために生じる裏証の一種で、主に四肢の冷えを伴う寒冷不耐、くすんだ白い面色、口渴がないまたは熱い飲料水の渴望、長時間の清澄尿の排出、白・潤苔を伴う淡白舌および遲・沈脈が発現する。
2.5.44		interior heat pattern/syndrome	裏熱證		外邪が内臓に進入することにより盛んな熱および化熱がみられる裏証で、主に発汗を伴う発熱、水分摂取を伴う口渴、心煩、口苦、短時間の赤色尿の排出、黄苔を伴う紅舌、および数・洪脈または数・弦脈が発現する。
2.5.45		interior deficiency pattern/syndrome	裏虚證		内臓の気、血、陰、陽の虚および機能低下により生じる裏証の一種で、通常、少気、話すのが億劫、無気力、倦怠感、心悸、めまい、耳鳴、摂食量減少、腰部の酸痛および跛行、淡白・嫩舌および弱脈が発現する。
2.5.46		interior excess pattern/syndrome	裏實證		(1) 外邪が化熱し、体内に進入して胃腸で結合することにより生じる証で、壮熱、わずらわしい口渴、腹痛および便秘が発現する、(2) 痰の貯留、血瘀、食物停滞または寄生虫寄生により生じる証の一般用語。
2.5.47		pattern/syndrome of dual exterior and interior cold	表裏俱寒證		寒邪が身体の表裏を同時に攻撃することにより生じる証で、通常、四肢の冷えを伴う悪寒、頭痛および身痛、腹部の冷痛、嘔吐および泄瀉、白食の喀出物を伴う咳嗽および喘、白苔を伴う淡白舌および緊脈が発現する。exterior-interior cold pattern/syndromeとも呼ばれる。
2.5.48		pattern/syndrome of dual exterior and interior heat	表裏俱熱證		表証が消失する前に裏に進入した熱邪、またはすでに存在している裏証と新規発症した湿病の表証の重複のいずれかにより生じる、表裏両方に関与する熱証で、通常、発熱、悪風、頭痛、顔面潮紅、口渴、いらだたしさまたは譫妄、便秘、暗黒色の尿、燥・黄苔を伴う紅舌および力強い数・浮脈が発現する。exterior-interior heat pattern/syndromeとも呼ばれる。
2.5.49		pattern/syndrome of dual exterior and interior	表裏俱實證		表裏両方に関与する実証で、通常、発汗を伴わない発熱、頭項強痛、いらいらする、腹部膨満および便秘が発現する。
2.5.50		pattern/syndrome of dual exterior and interior	表裏俱虚證		表裏両方に関与する虚証で、通常、悪風を伴う発汗、少気および話すのが億劫、摂食量減少、下痢、淡白舌および弱脈が発現する。
2.5.51	表寒裏熱證 外寒裏熱證	pattern/syndrome of exterior cold and interior heat	表寒裏熱證		(1) 寒邪が表を捕らえ、弱まつた熱が裏にとどまるといった雑然とした症例で、主に発汗がなく悪寒を伴う発熱、頭痛および身痛、心煩、短気、胸部充満、口渴、黄色と白色の舌苔が混在する紅舌、および浮・緊脈が発現する、(2) 裏の真熱と表の仮寒を特徴とする証。
2.5.51	表寒裏熱證 外寒裏熱證	exterior cold and interior heat pattern/syndrome	外寒裏熱證		(1) 寒邪が表を捕らえ、弱まつた熱が裏にとどまるといった雑然とした症例で、主に発汗がなく悪寒を伴う発熱、頭痛および身痛、心煩、短気、胸部充満、口渴、黄色と白色の舌苔が混在する紅舌、および浮・緊脈が発現する、(2) 裏の真熱と表の仮寒を特徴とする証。
2.5.52		pattern/syndrome of exterior heat and interior cold	表熱裏寒證		すでに存在している陽気不足に、風熱の感受が合併した証で、発熱、軽度の悪寒、頭痛および身痛、咳嗽、下痢、黄・薄苔を伴う弛緩した淡白舌および数・浮脈が発現する。

2.5.53		pattern/syndrome of exterior deficiency and interior syndrome	表虚裏實證		衛氣不足が、裏で結合した邪気により悪化する証で、悪風および自汗などの表虚の症状と同時に、腹痛、便秘および黄・厚苔などの裏実の症状が発現する。
2.5.54		pattern/syndrome of exterior excess and interior deficiency	表實裏虚證		表実と裏虚が同時に生じる証で、悪寒、無汗を伴う発熱、無気力および倦怠感、短気、厭食、心悸、白苔および浮脈が発現する。
2.5.55		pattern/syndrome of internal block and external collapse	内閉外脱證		過剰な邪気が裏で捕捉され（発熱、咳嗽および喘、または裏急後重を伴う腹痛、または便秘および尿閉、または胸部、心窩部、腹部の痙攣が発現）、一方で正気が虚脱する証（蒼白、手足厥冷、したたり落ちる冷汗、弱々しい呼吸およびほとんど触れない脈が発現）。
2.5.56		Cold-Heat Pattern Identification/Syndrome	寒熱辨證		症状を熱または寒によって分類し、これにより病性を判断する弁証論治の方法。
2.5.57		cold pattern/syndrome	寒證		体外の寒邪または体内の陽不足のいずれかにより生じる証の一般用語で、悪寒または畏寒、熱を好む冷痛、口渇の欠如、希薄な透明の痰および鼻粘液、長時間の清澄尿の排出、下痢、白い顔色、白苔を伴う淡白舌および緊脈または遅脈がよく発現する。
2.5.58		heat pattern/syndrome	熱證		外熱の攻撃または陽気の勢いのいずれかにより生じる証の一般用語で、通常、発熱、悪熱および冷えたものを欲する、口渇、顔面潮紅、いらいらおよび心煩、粘稠な黄色の痰および鼻粘液、短時間の暗黒色の尿の排出、便秘、黄苔を伴う紅舌、および数脈が発現する。
2.5.59		cold-heat complex	寒熱錯雜證		上熱下寒、上寒下熱、表熱裏寒、表寒裏熱など、熱と寒の合併を特徴とする証。
2.5.60		upper cold and lower heat pattern/syndrome	上寒下熱證		上半身は寒の症状、下半身は熱の症状を示す証。
2.5.61		upper heat and lower cold pattern/syndrome	上熱下寒證		上半身は熱の症状、下半身は寒の症状を示す証。
2.5.62		true cold with false heat pattern/syndrome	眞寒假熱證		盛んな内寒により陽気が体外に押しやられるときに生じる証で、主観的な熱っぽさ、顔面潮紅、煩躁、口渇、喉の痛みおよび大・浮脈と同時に、触ると冷たい胸部および腹部、手足厥冷、長時間の清澄尿の排出、未消化の食物を含む泄瀉、白苔を伴う淡白舌および弦・沈脈が発現する。
2.5.63		true heat with false cold pattern/syndrome	眞熱假寒證		盛んな熱邪により陽気が体内に閉じこめられるときに生じる証で、四肢の冷え、悪寒または寒戦、意識障害、黒紫色の顔色が発現する一方で、触ると熱い胸部および腹部を伴う壮熱および口・鼻からの熱い呼吸、口臭、荒い呼吸、わずらわしい口渇、短時間の黄色尿の排出、黄・燥苔を伴う紅舌および弦・速脈も発現する。
2.5.64		heat block pattern/syndrome	熱閉證		熱邪が臟腑・経絡内に充満するときに生じる証で、体外への正常な動きができなくなる。
2.5.65	熱極生風證；熱極動風證	pattern/syndrome of extreme heat engendering	熱極生風證		盛んな熱邪により生じる肝風証で、落ち着きのなさを伴う壮熱、抽搐、弓なり緊張および意識障害を特徴とする。
2.5.65	熱極生風證；熱極動風證	pattern/syndrome of extreme heat engendering	熱極動風證		盛んな熱邪により生じる肝風証で、落ち着きのなさを伴う壮熱、抽搐、弓なり緊張および意識障害を特徴とする。
2.5.66		deficiency-excess Pattern Identification/Syndrome	虚實辨證		正気と邪気の力を比較し、それにより病性を判断する弁証論治の分類。
2.5.67		deficiency pattern/syndrome	虚證		正気虚（陰、陽、気、血の虚を含む）により生じる証の一般用語。
2.5.68		excess pattern/syndrome	實證		六淫、有害な病原体・寄生虫・毒素などの外邪、または痰、飲、水、湿、膿、瘀血、宿食など、内臓の機能障害による病的な産物の蓄積に起因する証の一般用語。
2.5.69		deficiency cold pattern/syndrome	虚寒證		陽気虚に起因する寒証。陽虚証と同義。
2.5.70		deficiency heat pattern/syndrome	虚熱證		陰、気、血、津の虚に起因する熱証。
2.5.71		deficiency-excess complex pattern/syndrome	虚實夾雜證		過剰な邪気と正気不足が同時に存在するとき、正気と邪気の間で競争が起こり生じる証。
2.5.72		upper exuberance and lower deficiency pattern/syndrome	上盛下虚證		下半身における肝腎の陰虚とともに上半身における気、瘀血または痰の蓄積を特徴とする証。excess above and deficiency below pattern/syndromeと同義。

2.5.73	true deficiency with false excess pattern/	眞虚假實證		外面的にはいくつかの實の症状を示す虚証。
2.5.74	true excess with false deficiency pattern/	眞實假虚証		外面的にはいくつかの虚の症状を示す実証。
2.5.75	essential qi deficiency pattern/syndrome	精氣虧虚証		精氣の虚に起因する証で、るいそう、めまい、耳鳴、低身長およびきしゃな体形、動作緩慢、知的障害、または不孕、生殖不能、陽痿および早泄を特徴とする。
2.6.0	Disease Cause Pattern Identification/ Syndrome	病因辨證		
2.6.1	disease cause pattern identification/ syndrome	病因辨證		診断のために、種々の病因による病的状態に基づき証を分類すること。
2.6.2	external wind pattern/	外風証		外風の邪が単独で、または湿、熱、有害な毒など、その他の病邪と組み合わせることで生じる証の一般用語。
2.6.3	internal wind pattern/	内風証		裏で動き回る内風の証で、めまいおよび目昏、四肢の麻木、顫震、抽搐または搔痒が発現する。
2.6.4	wind-stroke block	中風閉証		開口部の遮断を特徴とする中風の証で、突然の神昏、半身不随、固く閉じた顎および固く握りしめた手が発現する。
2.6.5	wind-stroke collapse pattern/syndrome	中風脱証		陽氣の脱出を特徴とする中風の証で、突然の神昏、開口を伴う閉眼、弱々しい呼吸、弛緩性四肢麻痺、大量の冷汗、小便失禁・大便滑脱が発現する。
2.6.6	excess heat pattern/ syndrome	實熱証		熱邪は過剰（実）であるものの、身体の抵抗性がまだ十分にあり強く反応することにより生じる証で、落ち着きのなさを伴う壮熱、便秘、大または滑・数脈を特徴とする。
2.6.7	excess cold pattern/	實寒証		陰寒の感受により生じる証。
2.6.8	pattern/syndrome of cold in the middle	中寒証		陽氣不足および脾の運化障害により生じる中焦の虚寒証で、温め圧迫すると消失する腹痛、四肢の冷え、摂食量減少、軟便などを特徴とする。
2.6.9	summerheat pattern/ syndrome	暑証		暑邪の感受により生じる証で、発汗を伴う壮熱、口渴、短気、倦怠感、動かしにくい四肢、短時間の暗黒色の尿の排出、紅舌および数・虚脈を特徴とする。
2.6.10	dampness pattern/ syndrome	濕証		外湿または内部で生じた湿邪の感受に起因する証で、身体的疲労、重く動かしにくい四肢、頭重感、食欲不振、腹部膨満、便澁、滑・膩苔および濡・緩脈を特徴とする。
2.6.11	external dryness pattern/syndrome	外燥証		乾燥した気候により生じる証の一般用語で、一般に皮膚、鼻、口、喉の乾燥または乾咳を特徴とする。
2.6.12	internal dryness pattern/syndrome	内燥証		体液の消耗による燥証で、るいそう、皮膚のひび割れ、喉の乾燥、乾いた唇、口渴、乏尿、便秘、舌苔のない紅舌および数・細脈が発現する。
2.6.13	cool dryness pattern/ syndrome	涼燥証		秋の冷却および乾燥により生じる証で、頭痛、発熱よりも寒気、無汗、鼻腔および唇の乾燥、少量の喀出物を伴う咳嗽、薄・燥・白苔、浮・緊脈を特徴とする。
2.6.14	warm dryness pattern/syndrome	溫燥証		秋の外因性の暖かさおよび乾燥により生じる証で、軽度の悪風・悪寒を伴う発熱、鼻腔および唇の乾燥、口渴、少量の喀出物を伴う乾咳、そわそわする、薄・黄苔および数・浮脈を特徴とする。
2.6.15	pattern/syndrome of dryness affecting the clear orifices	燥乾清竅証		鼻粘液、唾液、涙を伴わない鼻、口、目の乾燥を特徴とする証。
2.6.16	dryness bind pattern/	燥結証		胃腸の津の虚による便秘を特徴とする証。
2.6.17	excess fire pattern/ syndrome	實火証		激しい火邪により生じる証で、胃腸または肝・胆の罹患が最も多く、壮熱、頭痛、目の充血、口苦、口乾、口渴のため冷たい飲料をほしがること特徴とする。
2.6.18	fire-heat pattern/ syndrome	火熱証		体外で感受するか、または体内で発生する熱と火の証。
2.6.19	pattern/syndrome of deficiency fire flaming upward	虚火上炎証		陰の不足により火が阻害されるときに生じる証で、喉の乾燥および痛み、心煩、失眠、めまい、耳鳴、健忘症、手掌および足底の熱、寝汗または目の充血、舌または口の潰瘍、紅・嫩舌および数・細脈を特徴とする。
2.6.20	pus pattern/syndrome	膿証		潰瘍性病変からの著しい悪臭を放つ膿性分泌物とともに、発熱、口渴、腐・膩苔および数・滑脈を特徴とする証。
2.6.21	food accumulation pattern/syndrome	食積証		心窩部および腹部の膨満、酸っぱい物質の嘔吐、厭食、大便の悪臭、腐・膩苔を特徴とする証。 food stagnation pattern/syndromeと同義
2.6.22	worm accumulation pattern/syndrome	蟲積証		寄生虫の腸への寄生により生じる証の一般用語で、しばしば、腹部の膨満または疼痛、るいそう、乏力および面色萎黄を特徴とする。

2.6.23	wind-phlegm pattern/syndrome	風痰證	痰を伴う外風または痰を伴う肝風に起因する証で、泡状の痰の喀出、胸部の充満および胸悶、めまい、頭部および目の脹痛、または喉で痰がからむ音、四肢の麻木、および失語症を伴う神昏、口眼喎斜を特徴とする。
2.6.24	cold-phlegm pattern/syndrome	寒痰證	寒、白・膩苔および針金様の滑脈または緊脈を特徴とする証。
2.6.25	heat-phlegm pattern/syndrome	熱痰證	痰濁とともに邪熱が肺に蓄積し、心を苦しめるときに生じる証で、黄色の喀出物を伴う咳嗽、わずらわしい胸部の閉塞感、発熱、口渇、心悸、失眠、短時間の暗黒色の尿の排出、ベトベトした黄・膩苔を伴う紅舌および数・滑脈を特徴とする。
2.6.26	dryness-phlegm pattern/syndrome	燥痰證	肺における燥熱および痰濁の蓄積により生じる証で、喀出困難な少量の粘着性の痰または血の付着した痰を伴う咳嗽、重圧感を伴う胸痛、鼻および口の乾燥、潤いは少ないが膩苔を伴う舌、および不規則に変わる細脈を特徴とする。
2.6.27	blood stasis-phlegm pattern/syndrome	瘀痰證	痰濁とともに瘀血が気機を閉塞するとき生じる証で、局所刺痛を伴う腫瘍形成、または肢の麻木および衰弱、大量の痰または暗黒色の血痰の喀出を伴う胸悶、紫舌または紫斑のある舌、膩苔および不規則に変わる弦脈を特徴とする。
2.6.28	purulent phlegm pattern/syndrome	膿痰證	膿または膿痰の喀出を特徴とする証。
2.6.29	dampness-phlegm pattern/syndrome	濕痰證	肺における濕痰の蓄積により生じる証で、大量の喀出物を伴う咳嗽、四肢が重い感じ、胸部が詰まった感じ、摂食量減少、口のねばつき、白・膩苔および滑脈を特徴とする。
2.6.30	pattern/syndrome of binding of phlegm and qi	痰氣互結證	抑うつ気分、失眠、夢に邪魔される睡眠、飲み込んだり排出したりできない喉の異物感、胸部の充満および胸悶、および大量の痰、白・膩苔および滑・弦脈を特徴とする証。
2.6.31	pattern/syndrome of internal harassment of phlegm-heat	痰熱内擾證	痰熱が神を邪魔し、気機を妨げるときに生じる証で、黄色の粘稠な喀出物を伴う咳嗽、喘、発熱、口渇、心煩、失眠、夢に邪魔される睡眠、黄・膩苔を伴う紅舌および数・滑脈を特徴とする。
2.6.32	pattern/syndrome of internal block of phlegm-heat	痰熱内閉證	裏の痰熱が心神を閉塞・遮断するとき生じる証で、意識障害、胸部の充満、重圧感および灼痛に関連する譫妄または躁病、咳嗽、喘および黄色の粘稠な痰の喀出、発熱および口渇が発現する。喉がぜいぜい鳴る音を伴う意識消失の卒発、黄・膩苔を伴う紅舌および滑脈がみられる症例もある。
2.6.33	pattern/syndrome of phlegm-heat stirring wind	痰熱動風證	胸部の充満および胸悶に関連する抽搐またはめまい、咳嗽、喘および黄色の粘稠な痰の喀出、発熱、口渇、または悪心および嘔吐、黄・膩苔を伴う紅舌および数・滑脈を特徴とする。
2.6.34	pattern/syndrome of lingering phlegm nodule	痰核留結證	とくに頸部の皮膚の下にある、可動性があり、丸くて固く、指で触ると逃げるが、発赤、熱っぽさ、疼痛はみられない瘤を特徴とする証。
2.6.35	pattern/syndrome of blood stasis with wind	血瘀風燥證	体内の瘀血が燥および風を引き起こすときに生じる証で、肌膚甲錯、落屑および掻痒に伴い、めまい、肢の麻木、紫舌または紫斑のある舌、不規則に変わる細脈が発現する。
2.6.36	pattern/syndrome of blood stasis with water retention	血瘀水停證	刺痛を伴う腹部の腫瘍形成、腹部の拡張・膨満、小便不利、紫舌または紫斑のある舌、および不規則に変わる細脈を特徴とする証。
2.6.37	pattern/syndrome of internal obstruction of cold-dampness	寒濕内阻證	頭部および身体が重い感じ、関節痛のため屈伸できない、無汗または顔面および四肢の水腫、軟便、および排尿困難。潤・白苔および滑脈を特徴とする証。
2.6.38	pattern/syndrome of congealing cold with blood stasis	寒凝血瘀證	寒邪により気機および血の流れが閉塞されるときに生じる証で、冷やすと悪化し温めると軽減する疼痛、四肢の冷えおよびチアノーゼ、および月経後期、有痛性の月経期、血餅の混じった黒紫色の月経、白苔を伴う黒紫舌、および不規則に変わる遅・沈脈が発現する。
2.6.39	blood cold pattern/syndrome	血寒證	寒凝および気滞により血の動きが阻害され、血瘀がもたらされるときに生じる証で、黒紫色の皮膚を伴う四肢の冷痛または温めると緩和し冷やすと悪化する小腹急結、月経後期および血餅の混じった黒紫色の月経、白苔および不規則に変わる遅・沈脈がよく発現する。
2.6.40	pattern/syndrome of retained dampness-heat toxin	濕熱毒蘊證	手、足、耳、鼻、頭、顔または陰部の発赤、腫脹、潰瘍および浸出液、または発熱、黄疽、意識障害、疹、紅舌および数・濡脈を特徴とする証。
2.6.41	pattern/syndrome of dampness-heat pouring	濕熱下注證	小便頻数および有痛性排尿、または悪臭のある黄帯、または膿性分泌液を伴う脚の潰瘍を特徴とする証。
2.6.42	pattern/syndrome of pestilential toxin pouring	瘟毒下注證	疥癩時の精巢の疼痛を伴う腫脹など、有害な毒が下方に注がれることを特徴とする証。
2.6.43	wind-toxin pattern/syndrome	風毒證	皮膚および筋肉に対する風毒の攻撃により生じる証で、麻木を伴う水腫の卒発、掻痒および疼痛、または膨疹、顔、目、鼻および口の発赤および腫脹を特徴とする。

2.6.44	wind-fire-heat toxin pattern/syndrome	風火熱毒證		皮膚および筋肉における風・火・熱毒の蓄積により生じる証で、搔痒を伴うせつ、癩または有頭疽の形成、麻木および灼痛または壯熱を伴う化膿および潰瘍、黄褐色の舌苔を伴う緯舌および数・沈脈を特徴とする。
2.6.45	fire toxin pattern/syndrome	火毒證		皮膚および皮下組織に停滞した盛んな熱火に由来する毒により生じる証で、局所の発赤、腫脹および灼熱痛と、それに続く膿瘍形成および併発する発熱、口渴、黄苔を伴う紅舌および数脈を特徴とする。
2.6.46	pattern/syndrome of inward invasion of fire	火毒内陷證		盛んな火熱毒が内臓に浸透するときに生じる症候群で、通常、口渴を伴う壯熱、譫妄、便秘、暗黒色の尿、黄苔を伴う緯舌および数・沈脈が発現する。
2.6.47	yin toxin pattern/syndrome	陰毒證		陰寒に由来する毒が蓄積するときに生じる証で、通常、温めると軽減し化膿・破裂しにくい、または希薄な悪臭のある膿を含む局所のびまん性の腫脹とともに冷痛が発現し、悪寒および四肢の冷え、白苔および沈脈が付随する。
2.6.48	pattern/syndrome of inward attack of snake venom	蛇毒内攻證		蛇に咬まれた後、蛇毒が内臓に侵入するときに生じる証で、頭痛およびめまい、胸悶、喘、冷汗および四肢の冷え、または神昏を特徴とする。
2.6.49	calculus obstruction pattern/syndrome	石阻證		結石の閉塞により生じる証で、下腹に放散する右下肋部または腰部の脹痛や疝痛を特徴とする。
2.6.50	wind-cold pattern/syndrome	風寒證		体外で風寒を感受することにより生じる証で、微熱を伴う著しい悪寒、頭痛、身痛、無汗、鼻づまりおよび水のような鼻汁の分泌、薄・白・潤苔、および浮脈が発現する。
2.6.51	wind-heat pattern/syndrome	風熱證		体外で風熱を感受することにより生じる証で、著しい発熱および軽度の悪寒、咳嗽、口渴、紅色の舌辺・舌尖、淡黄苔および数・浮脈が発現する。
2.6.52	wind-fire pattern/syndrome	風火證		体外で風・火の両方を感じることにより生じる証。
2.6.53	wind-dampness pattern/syndrome	風濕證		体外で風・湿の両方を感じることにより生じる証で、身痛、身体が重い感じ、関節を動かしにくくなる関節痛が発現する。
2.6.54	wind-dryness pattern/syndrome	風燥證		体外で風・燥の両方を感じることにより生じる証で、頭痛、発熱、悪風、無汗、鼻、唇、喉および皮膚の乾燥、乾咳、薄・燥苔が発現する。
2.6.55	heat toxin pattern/syndrome	熱毒證		蓄積した火熱邪が毒に転換するときに生じ、せつ、瘡および発疹を伴う疾病において発現する証。
2.6.56	dampness toxin pattern/syndrome	濕毒證		蓄積した湿が毒に転換するときに生じる証で、経過が長引き治癒しにくく、濁った分泌物の存在を特徴とする。
2.6.57	cold-dampness pattern/syndrome	寒濕證		(1) 気および血の動きが寒・湿の両方によって妨げられるときに生じる証で、関節、筋肉および骨の疼痛を特徴とする、(2) 湿が脾および胃を苦しみ、寒が脾陽に損傷（脾腎陽虚例では水津の停滞）をもたらすときに生じる証で、悪寒、四肢の冷え、腹部膨満、泄瀉または水腫を特徴とする。
2.6.58	dampness-heat pattern/syndrome	濕熱證		体外または体内のいずれかに由来する湿・熱の両方により生じる証で、部位により異なる症候が発現する。たとえば、濕熱が肝および胆に蓄積すると黄疽、濕熱が吹き出ると帯下、腸に存在すると泄瀉を引き起こす。
2.6.59	yin summerheat pattern/syndrome	陰暑證		風やすきま風に曝露したこと、または暑い夏に冷たい飲料水を摂取しすぎたことにより生じる証で、発熱、頭痛、悪寒、無汗、身痛が発現する。嘔吐、泄瀉および腹痛が生じる場合もある。
2.6.60	phlegm-dampness pattern/syndrome	痰濕證		湿が集まって痰を形成するときに生じる証で、部位により異なる症候が発現する。たとえば、痰が肺を閉塞すると大量の白色の喀出物を伴う咳嗽および胸部重圧感、痰が脾に蓄積すると心窩部が詰まった感じ、摂食量減少、口の中が油っぽい感じを引き起こす。痰湿の一般的な徴候は白・膩苔および滑
2.7.0	Qi-Blood Pattern Identification/Syndrome	氣血辨證		
2.7.1	qi-blood pattern identification/syndrome differentiation	氣血辨證		気および血の状態による証の分類。
2.7.2	qi deficiency pattern/syndrome	氣虚證		内臓機能の低下を伴う真気の虚の証で、短気、倦怠感、無気力、自汗、淡白舌および弱脈を特徴とする。
2.7.3	qi sinking pattern/syndrome	氣陷證		機能の亢進や維持ができなくなることに生じる証で、めまい、目昏、少気、倦怠感、肛門脱、子宮脱または内臓下垂、白苔を伴う淡白舌および弱脈を特徴とする。
2.7.4	qi stagnation pattern/syndrome	氣滯證		気の停滞により生じる証で、しばしば太息または噯気により軽減する、間欠的な胸部、下肋部、心窩部および腹部の膨満感または疼痛を特徴とする。
2.7.5	qi counterflow pattern/syndrome	氣逆證		気が異常に上方に動くときに生じる証で、咳嗽および喘、または悪心、嘔吐、呃逆、噯気または吐血、または膨満感および重圧感を伴い、ガスが下腹から胸または喉に上がってくる感じ、頭痛およびめまいが発現する。
2.7.6	qi block pattern/syndrome	氣閉證		落ち着きのなさを伴う突然の神昏、開口障害および四肢拘急、または胸部および腹部の疝痛、またはチアノーゼを伴う喘促の卒発、または便閉および尿閉を特徴とする証。

2.7.7	qi collapse pattern/	氣脱證		突然の多汗、くすんで蒼白な顔色、唇のチアノーゼ、四肢の冷え、弱々しい呼吸、小便失禁を伴う昏厥または神昏、淡白舌およびほとんど触れない脈を特徴とする証。
2.7.8	disordered qi movement pattern/	氣機失調證		氣滯、氣逆、氣焰、氣閉および氣脱など、氣機の障害に起因する一群の証の一般用語。
2.7.9	inhibited qi movement pattern/	氣機不利證		妨げられ閉塞した、またはうっ滞した氣の流れが臟および経絡の機能を障害することにより生じる証で、重圧感、膨満感および疼痛とともに頻繁な太息、抑うつ気分および弦脈を特徴とする。
2.7.10	stagnant qi movement pattern/syndrome	氣機鬱滯證		氣機のうっ滞により生じる証で、太息傾向を伴う重圧感、膨満感および疼痛、感情の落ち込みおよび弦脈を特徴とする。
2.7.11	qi depression pattern/	氣鬱證		胸部膨満感、下肋部の疼痛、いらいら、怒りっぽい、厭食および月経障害（女性）を特徴とする証。氣滯証と同義。
2.7.12	pattern/syndrome of depressed qi transforming into fire	氣鬱化火證		感情の落ち込み、いらいら、怒りっぽい、胸部の膨満感および灼熱痛、および黄苔を伴う紅舌を特徴とする証。 pattern/syndrome of stagnated qi transforming into fireと同義。
2.7.13	pattern/syndrome of congealing cold with qi	寒凝氣滯證		寒邪が氣機および氣化を妨げるときに生じる証で、身痛、頭痛、頸部の疼痛・硬直、背痛および腰痛、冷感を伴う心窩部痛および腹痛、四肢および関節の疼痛など、さまざまな疼痛を特徴とする。
2.7.14	sunken middle qi pattern/syndrome	中氣下陷證		心窩部および腹部が下垂する感じ、長引く泄瀉、直腸脱または内臓下垂を特徴とする証。
2.7.15	pattern/syndrome of qi deficiency with failure to constrict	氣虛不攝證		氣の不足により水津を体内に閉じこめることができず、結果として水津が減少するときに生じる証で、遺精、小便失禁、自汗、出血、つやのない顔色、倦怠感、乏力、膨らんだ淡白舌、および弱脈を特徴とする。
2.7.16	qi deficiency fever	氣虛發熱證		持続性の低熱が激しい身体活動により悪化することを特徴とする証で、疲労、乏力、短気、淡白舌および弱脈を伴う。
2.7.17	pattern/syndrome of qi deficiency with dampness obstruction	氣虛濕阻證		無氣力、倦怠感、摂食量減少、短気、頭部および身体が重い感じ、腹部膨満、泄瀉および濡・弱脈を特徴とする証。
2.7.18	pattern/syndrome of qi deficiency with water retention	氣虛水停證		四肢の水腫、小便不利、頭部および身体が重い感じ、胸部、心窩部および腹部の膨満感、疼痛、圧迫感、および白・滑苔を伴う淡白舌を特徴とする証。
2.7.19	pattern/syndrome of qi deficiency with external contraction	氣虛外感證		悪寒、発熱、自汗、頭痛、鼻づまり、弱々しい声、倦怠感、乏力および短気を特徴とする証。
2.7.20	pattern/syndrome of dual deficiency of qi	氣陰兩虛證；氣陰虧虛證		無氣力、乏力、短気、話すのが億劫、喉および口の乾燥、わずらわしい口渇、午後の頬部潮紅、短時間の少量の尿の排出、便秘、るいそう、少量の燥苔および虚脈を特徴とする。
2.7.21	blood deficiency pattern/syndrome	血虚證		面色蒼白または面色萎黄、青白い唇および爪、めまい、目暗、心悸、四肢の麻木および細脈を特徴とする証。
2.7.22	blood collapse pattern/syndrome	血脱證		急性の大量出血例に生じる危篤の証で、蒼白、めまい、心悸、弱々しい短い呼吸、四肢の冷えおよび昏蒙、淡白舌、扪脈またはほとんど触れない脈を特徴とする。
2.7.23	blood stasis pattern/syndrome	血瘀證		肉眼で認められる有痛性の柔らかい紫色の腫瘤形成、または刺痛および圧痛を伴う腹部腫瘤、または血餅の混じった黒紫色の出血、黒紫舌、および不規則に変わる細脈または不整脈を特徴とする証。
2.7.24	blood amassment pattern/syndrome	蓄血證		うっ滞した血が経絡または臓器に蓄積することにより生じる証で、たとえば胞（子宮）では、下腹の膨満感および疼痛、寒気および発熱、夜間の譫妄またはその他の精神障害、中焦では、心窩部の疼痛、圧痛が発現し、触れられるのを嫌が
2.7.25	blood heat pattern/syndrome	血熱證		盛んな邪熱が血分に入るときに生じる証で、発熱、鼻血、血の吐出や咯出、便血、皮疹、または大量の鮮紅色の月経を伴う月経先期、心煩、または譫妄および抽搐、深い緯舌および数・弦脈が発
2.7.26	pattern/syndrome of dual deficiency of qi	氣血兩虚證		無氣力、乏力、短気、面色蒼白または面色萎黄、めまい、目暗、蒼白な唇および爪、心悸、失眠、淡白舌および弱脈を特徴とする証。
2.7.27	qi-blood disharmony pattern/syndrome	氣血失調證		氣血の調和が乱れ、互いに滋養し合い、補い合うことができなくなることにより生じる証で、通常、持続痛、氣の逆流、月経不調および慢性出血を伴う。
2.7.28	pattern/syndrome of qi deficiency with blood stasis	氣虚血瘀證		氣虚により生じる血瘀の証で、くすんだ蒼白な顔色、乏力、短気、局所刺痛、紫舌または紫斑のある舌および不規則に変わる沈脈を特徴とする。
2.7.29	pattern/syndrome of qi stagnation and blood stasis	氣滯血瘀證		腫瘤形成の有無を問わない胸部、下肋部、心窩部または腹部の遊走痛または刺痛、紫舌または紫斑のある舌および不規則に変わる弦脈を特徴とする証。
2.7.30	pattern/syndrome of qi collapse following	氣隨血脱證		面色蒼白、手足厥冷、多汗、弱々しい呼吸、または呼吸停止、およびほとんど触れない脈または根がない虚・大脈を特徴とする証。

2.7.31		pattern/syndrome of qi failing to control the blood	氣不攝血證		便血、開口部からの出血、歯衄、子宮出血または過剰な月経、無気力、乏力、短気、話すのが億劫、つやのない顔色、淡白舌および弱脈を特徴とする証。
2.7.32		pattern/syndrome of blood deficiency complicated by	血虚挟瘀證		面色萎黄または面色蒼白、めまい、目昏、心悸、夢に邪魔される睡眠、部位が固定された刺痛、血餅の混じった黒紫色の少量の月経、月経困難症または無月経、紫舌または紫斑のある舌、および不規則に変わる細脈を特徴とする証。
2.7.33		pattern/syndrome of blood deficiency and congealing cold	血虚寒凝證		紫がかった顔色、めまい、目昏、黒紫色の唇および舌、手足の冷え、および局所の冷え、疼痛および麻木を特徴とする証。女性では、月経後期、少量の暗黒色の血または血餅の分泌、有痛性の月経期または閉経が認められる。
2.7.34		pattern/syndrome of blood deficiency and wind-damage	血虚風燥證		あかぎれ、ひび割れおよび脱毛を伴う皮膚の乾燥、荒れ、かゆみ、しわ、体表の麻木、手足の筋収縮、つやのない顔、蒼白の爪、めまいおよび目昏、淡白舌および細脈を特徴とする証。
2.7.35		pattern/syndrome of blood deficiency engendering	血虚生風證		血の虚により筋の滋養が枯渇することにより生じる肝風証で、麻木、顫震、四肢の筋収縮、搔痒、めまい、つやのない爪、淡白舌および細・弱脈を特徴とする。
2.8.0		Fluid-Humor Pattern Identification/ Syndrome Differentiation	津液辨證		
2.8.1		fluid-humor pattern identification/ syndrome differentiation	津液辨證		津液の状態による証の分類。
2.8.2		phlegm pattern/ syndrome	痰證		咳嗽、大量の喀出物を伴う喘、または悪心、嘔吐およびめまい、またはしこりや結節の形成を特徴とする一群の証の一般用語。
2.8.3		fluid retention pattern/syndrome	飲證		めまい、胸部および心窩部が詰まった感じ、透明な津の嘔吐、滑苔および弦脈を特徴とする証。
2.8.4		water retention pattern/syndrome	水停證		水腫、乏尿、またはこれに付随する腹水、白色の滑苔を伴う膨らんだ淡白舌および濡・緩脈を特徴とする証。
2.8.5		humor collapse pattern/syndrome	液脱證		津の虚を示す重症例の証で、乾いたまたはひび割れた唇、皮膚のひび割れ、落ちくぼんだ目、耳鳴、乏尿および乾燥して固まった便、潤いのない紅舌および細・弱脈を特徴とする。
2.8.6	津液虧虚證；津液虧損證	fluid-humor deficiency pattern/syndrome	津液虧虚證		口および喉の乾燥、乾いたまたはひび割れた唇、口渇および冷たい飲料水の渴望、乏尿、便秘、潤いのない紅舌、および数・細・弱脈を特徴とする証。
2.8.6	津液虧虚證；津液虧損證	fluid-humor deficiency pattern/syndrome	津液虧損證		口および喉の乾燥、乾いたまたはひび割れた唇、口渇および冷たい飲料水の渴望、乏尿、便秘、潤いのない紅舌、および速・細・弱脈を特徴とする証。
2.8.7		fluid-qi deficiency pattern/syndrome	津氣虧虚證		津および気の両方の虚により生じる証で、無気力、短気、わずらわしい口渇、皮膚の乾燥、燥苔を伴う紅舌および細・弱脈が発現する。
2.8.8		pattern/syndrome of qi stagnation with water retention	氣滯水停證		四肢の水腫、乏尿、頭部および身体が重い感じ、胸部、心窩部、腹部の膨満感、重圧感および窠痛、白・滑苔を伴う淡白舌および弦・緩脈を特徴とする証。
2.8.9		pattern/syndrome of fluid retention in the chest and hypochondrium	飲停胸脅證		体をよじる動作や呼吸、またとくに咳嗽により悪化する胸部および下肋部の疼痛を特徴とし、胸部膨満感、胸部圧迫感および短気、白・滑苔および弦脈を伴う証。
2.8.10		pattern/syndrome of mutual contention of wind and water	風水相搏證		し、皮下に水が異常に蓄積するときに生じる証で、頭部および顔面に水腫が急性に発現した後、全身に広がり、悪寒を伴い、発熱、無汗、尿量減少、薄・白苔および浮脈が発現する。
2.9.0		Visceral Pattern Identification/ Syndrome Differentiation	臟腑辨證		
2.9.1		visceral pattern identification/ syndrome differentiation	臟腑辨證		臟腑の病的変化による証の分類。
2.9.2		Heart Diseases Pattern Identification/ Syndrome Differentiation	心病辨證		心の疾病を取り扱う臟の弁証論治。

2.9.3	心氣虚證; 心氣不足 證; 心氣虧	heart qi deficiency pattern/syndrome	心氣虚證		心悸、短気、無気力、自汗、蒼白、淡白舌および弱脈または不整脈を特徴とする証。
2.9.3	心氣虚證; 心氣不足 證; 心氣虧	heart qi deficiency pattern/syndrome	心氣不足證		心悸、短気、無気力、自汗、蒼白、淡白舌および弱脈または不整脈を特徴とする証。
2.9.3	心氣虚證; 心氣不足 證; 心氣虧	heart qi deficiency pattern/syndrome	心氣虧虚證		心悸、短気、無気力、自汗、蒼白、淡白舌および弱脈または不整脈を特徴とする証。
2.9.4	心血虚證; 心血不足 證; 心血虧	heart blood deficiency pattern/syndrome	心血虚證		心神を滋養するための血の虚により生じる証で、心悸、めまい、夢に邪魔される睡眠、健忘症、面色蒼白または面色萎黄、淡白な色の唇および舌、および細脈が発現する。
2.9.4	心血虚證; 心血不足 證; 心血虧	heart blood deficiency pattern/syndrome	心血不足證		心神を滋養するための血の虚により生じる証で、心悸、めまい、夢に邪魔される睡眠、健忘症、面色蒼白または面色萎黄、淡白な色の唇および舌、および細脈が発現する。
2.9.4	心血虚證; 心血不足 證; 心血虧	heart blood deficiency pattern/syndrome	心血虧虚證		心神を滋養するための血の虚により生じる証で、心悸、めまい、夢に邪魔される睡眠、健忘症、面色蒼白または面色萎黄、淡白な色の唇および舌、および細脈が発現する。
2.9.5		pattern/syndrome of dual deficiency of heart qi and	心気血兩虚證		気および血の両方の虚のために心神の滋養が枯渇することにより生じる証で、通常、心悸、短気、無気力、疲労、めまい、健忘症、夢に邪魔される睡眠、面色蒼白・淡白舌および細・弱脈が発現する。
2.9.6		pattern/syndrome of heart deficiency with	心虚膽怯證		心悸、失眠、臆病で驚きやすい、めまい、胸部圧迫感、淡白舌、弱脈または数・動脈を特徴とする証。
2.9.7	心陰虚證; 心陰不足 證; 心陰虧	heart yin deficiency pattern/syndrome	心陰虚證		心神を滋養するための陰津の虚により生じる証で、精神的ないらいら、心悸、失眠、低熱、盗汗、頬部潮紅、口渇および数・細脈が発現する。
2.9.7	心陰虚證; 心陰不足 證; 心陰虧	heart yin deficiency pattern/syndrome	心陰不足證		心神を滋養するための陰津の虚により生じる証で、精神的ないらいら、心悸、失眠、低熱、盗汗、頬部潮紅、口渇および数・細脈が発現する。
2.9.7	心陰虚證; 心陰不足 證; 心陰虧	heart yin deficiency pattern/syndrome	心陰虧虚證		心神を滋養するための陰津の虚により生じる証で、精神的ないらいら、心悸、失眠、低熱、盗汗、頬部潮紅、口渇および数・細脈が発現する。
2.9.8	心陽虚證; 心陽不足 證; 心陽虧	heart yang deficiency pattern/syndrome	心陽虚證		心を温め、活性化するための陽気の虚により生じる証で、通常、心悸、喘、胸部圧迫感、四肢の冷えを伴う悪寒、面色晄白、暗黒色の唇および白苔を伴う舌、弱脈または不整脈が発現する。
2.9.8	心陽虚證; 心陽不足 證; 心陽虧	heart yang deficiency pattern/syndrome	心陽不足證		心を温め、活性化するための陽気の虚により生じる証で、通常、心悸、喘、胸部圧迫感、四肢の冷えを伴う悪寒、面色晄白、暗黒色の唇および白苔を伴う舌、弱脈または不整脈が発現する。
2.9.8	心陽虚證; 心陽不足 證; 心陽虧	heart yang deficiency pattern/syndrome	心陽虧虚證		心を温め、活性化するための陽気の虚により生じる証で、通常、心悸、喘、胸部圧迫感、四肢の冷えを伴う悪寒、面色晄白、暗黒色の唇および白苔を伴う舌、弱脈または不整脈が発現する。
2.9.9		heart yang collapse pattern/syndrome	心陽虚脱證		突然の多汗と冷たい皮膚、手足厥冷、弱々しい呼吸、心悸、意識混濁または神昏、面色蒼白およびほとんど触れない脈を特徴とする証。
2.9.10		pattern/syndrome of heart fire flaming upward	心火上炎證		心から上方に火が燃えさかる証で、口腔潰瘍、精神的ないらいら、失眠、および紅舌尖を特徴とする。
2.9.11		intense heart fire pattern/syndrome	心火熾盛證		盛んな火が心神を妨げる証で、発熱、口渇、心煩、失眠を特徴とし、重症例では、躁病性の煩躁、譫語、紅舌尖および黄苔、および数・滑脈が認められる。
2.9.12		pattern/syndrome of heat harassing the heart spirit	熱擾心神證		盛んな火が心神を妨げることにより生じる証で、発熱、口渇、心煩、失眠、または躁状態での発語 (manic speech) または譫語、顔面潮紅、便秘、暗黒色の尿、紅舌尖、黄苔および数・滑脈を特徴とする。
2.9.13		pattern/syndrome of transmission of heart heat to the small	心移熱小腸證		心火が盛んで、小腸に広がるときに生じる証で、発熱、口渇、心煩、有痛性の潰瘍を伴う口の瘡、不快な痛みを伴う赤色尿の排出または尿血、紅舌尖および黄苔、および数脈を特徴とする。
2.9.14		heart blood stasis (obstruction) pattern/	心血瘀阻證		心脈の血流が妨げられるときに生じる証で、心悸および前胸部の刺痛を特徴とする。
2.9.15		heart vessel obstruction pattern/	心脈痹阻證		心脈が妨げられるときに生じる証で、怔忡を伴う心悸発作、肩または上腕に放散する心・胸部の疼痛および圧迫感を特徴とする。
2.9.16		pattern/syndrome of phlegm clouding the heart spirit	痰蒙心神證		意識障害、精神的落ち込み、または昏睡とともに、喉に痰がからまる音を特徴とする証。
2.9.17	痰火擾心 證; 痰火擾 神證	pattern/syndrome of phlegm-fire harassing the	痰火擾心證		心神を苦しめる痰火により生じる証で、落ち着きのなさ、失眠または狂乱状態、紅舌尖、顆粒の密な黄・膩苔および数・滑脈を特徴とする。

2.9.17	痰火擾心 證：痰火擾 神證	pattern/syndrome of phlegm-fire harassing the	痰火擾神證		心神を苦しめる痰火により生じる証で、落ち着きのなさ、失眠または狂乱状態、紅舌尖、顆粒の密な黄・膩苔および数・滑脈を特徴とする。
2.9.18		pattern/syndrome of water qi intimidating the heart	水氣凌心證		心・腎の陽氣の虚により水かあふれ出るときに生じる証で、全身、とくに四肢の水腫に伴う心悸および短気、短時間の少量の清澄尿の排出とともに、無気力、倦怠感、四肢の冷え、蒼白または暗く陰うつな顔、白・滑苔を伴う膨らんだ淡白舌および弱い沈脈を特徴とする。
2.9.19		pattern/syndrome of (blood) stasis obstructing the brain collateral	瘀阻腦絡證		瘀血により腦の脈絡が閉塞するときに生じる証で、めまい、固定された部位の頭痛、または健忘症、失眠または神昏、くすんでつやのない顔色、紫舌または紫斑のある舌および不規則に変わる細脈を特徴とする。
2.9.20		pattern/syndrome of qi block with syncope	氣閉神厥證		感情的な刺激により心神に関与する氣機が閉塞することで引き起こされる証で、昏厥、失語症または神昏、開口障害、抽搐および弦または伏脈を特徴とする。
2.9.21		pattern/syndrome of fluid retention in the	飲停心包證		心膜の飲（津の停滞）により気および血の流れが妨げられることで引き起こされる証で、力強い心拍、胸部の充満および圧迫感、喘のために横になれない、白・滑苔を伴う紫舌、および沈脈または伏脈を特徴とする。
2.9.22		small intestinal qi stagnation pattern/	小腸氣滯證		小腸の氣滯により生じる証で、腹鳴を伴う腹痛を特徴とする。
2.9.23		Lung diseases Pattern Identification/ Syndrome	肺病辨證		肺の疾病を取り扱う臟の弁証論治。
2.9.24	肺氣虚證； 肺氣虧虚證	lung qi deficiency	肺氣虚證		面色蒼白、短気、弱々しい声、風の不耐および自汗を特徴とする証。
2.9.24	肺氣虚證； 肺氣虧虚證	lung qi deficiency	肺氣虧虚證		面色蒼白、短気、弱々しい声、風の不耐および自汗を特徴とする証。
2.9.25	肺陰虚證； 肺陰虧虚證	lung yin deficiency	肺陰虚證		肺陰の虚および体内の熱により生じる証で、乾咳、午後の発熱、盗汗、頰部潮紅、喉の乾燥、紅舌・舌乾および数・細脈が発現する。
2.9.25	肺陰虚證； 肺陰虧虚證	lung yin deficiency	肺陰虧虚證		肺陰の虚および体内の熱により生じる証で、乾咳、午後の発熱、盗汗、頰部潮紅、喉の乾燥、紅舌・舌乾および数・細脈が発現する。
2.9.26		lung yang deficiency pattern/syndrome	肺陽虚證		肺を温める陽氣の虚により生じる証で、通常、咳嗽、喘および希薄な喀出物、畏寒および四肢の冷え、自汗、面色蒼白、白・滑苔を伴う胖大舌および弱脈が発現する。
2.9.27		pattern/syndrome of wind-cold assailing the lung	風寒襲肺證		寒氣、鼻づまり、嘔吐、大量の水っぽい鼻汁、希薄な痰、薄・白苔および浮・緊脈を特徴とする証。
2.9.28		pattern/syndrome of wind-cold fettering the lung	風寒束肺證		風寒が肺に侵入し、肺氣が宣発できなくなるときに生じる証で、希薄な白色痰を伴う咳嗽、おそらく微熱を伴う悪寒、透明な鼻汁を伴う鼻づまり、喉のかゆみ、胸悶、白苔および浮・緊脈が発現する。
2.9.29		pattern/syndrome of wind-heat invading the lung	風熱犯肺證		軽度の寒氣を伴う発熱、頭痛、喉の痛み、咳嗽、薄・黄苔を伴う紅舌尖、および数・浮脈を特徴とする証。
2.9.30	燥邪犯肺 證；燥邪傷 肺證	pattern/syndrome of dryness invading the lung	燥邪犯肺證		痰を伴わないまたは喀出困難な少量のねばつく痰を伴う乾咳、胸痛、軽度の寒氣および発熱、口渇、唇、口、喉、鼻の乾燥および浮脈を特徴とする証。
2.9.30	燥邪犯肺 證；燥邪傷 肺證	pattern/syndrome of dryness invading the lung	燥邪傷肺證		痰を伴わないまたは喀出困難な少量のねばつく痰を伴う乾咳、胸痛、軽度の寒氣および発熱、口渇、唇、口、喉、鼻の乾燥および浮脈を特徴とする証。
2.9.31		lung heat pattern/ syndrome	肺熱證		肺熱の証の一般用語。
2.9.32		intense lung heat pattern/syndrome	肺熱熾盛證		発熱、口渇、咳嗽、喘または胸痛、便秘、暗黒色の尿、黄苔を伴う紅舌を特徴とする証。
2.9.33		pattern/syndrome of phlegm-heat obstructing the lung	痰熱閉肺證		咳嗽、喘、粘稠な黄色または血の付着した痰の喀出、胸痛、黄・膩苔を伴う紅舌および数・滑脈を特徴とする証。
2.9.34		pattern/syndrome of phlegm turbidity obstructing the	痰濁阻肺證		大量の白色痰の喀出を伴う咳嗽、胸部が詰まった感じ、白・膩苔および濡脈を特徴とする証。
2.9.35		pattern/syndrome of cold-phlegm obstructing the lung	寒痰阻肺證		喀出しやすい大量の痰を伴う咳嗽および胸部圧迫感、または痰を伴う喘鳴、悪寒および四肢の冷え、白・膩苔または滑苔を伴う淡白舌、および弦・滑脈を特徴とする証。
2.9.36		pattern/syndrome of summerheat damaging the lung vessel	暑傷肺絡證		発熱、口渇、咳嗽、鮮血の喀出、黄苔を伴う紅舌および数・弱脈を特徴とする証。

2.9.37		pattern/syndrome of heat toxin blocking the lung	熱毒閉肺證		発熱、手足厥冷、咳嗽、喘、荒い呼吸を伴う胸部圧迫感、黄苔を伴う紅舌および数・沈脈を特徴とする証。
2.9.38		pattern/syndrome of lung dryness with intestinal obstruction	肺燥腸閉證		咳嗽、喘、口渴、便秘、腹部膨満、黄・燥苔および沈・実脈を特徴とする証。
2.9.39		Spleen Diseases Pattern Identification/ Syndrome	脾病辨證		脾の疾病を取り扱う臓の弁証論治。
2.9.40		spleen deficiency pattern/syndrome	脾虚證		脾の気、陰、陽の虚を含む脾虚の証。
2.9.41	脾氣虚證; 脾氣虧虚證	spleen qi deficiency pattern/syndrome	脾氣虧虚證		めまい、疲労、面色萎黄、消化不良、腹部膨満、倦怠感、厭食および下痢を特徴とする証。
2.9.41	脾氣虚證; 脾氣虧虚證	spleen qi deficiency pattern/syndrome	脾氣虚證		めまい、疲労、面色萎黄、消化不良、腹部膨満、倦怠感、厭食および下痢を特徴とする証。
2.9.42		pattern/syndrome of spleen failing in transportation	脾失健運證		脾が虚の状態が生じる証で、しばしば、厭食、腹部膨満、泄瀉、腹鳴を特徴とし、慢性例ではいそう、乏力、四肢の水腫が認められる。
2.9.43	脾陰虚證; 脾陰虧虚證	spleen yin deficiency pattern/syndrome	脾陰虚證		陰津の虚および脾の運化障害により生じる証で、摂食不能による空腹感、いそうおよび倦怠感を特徴とする。
2.9.43	脾陰虚證; 脾陰虧虚證	spleen yin deficiency pattern/syndrome	脾陰虧虚證		陰津の虚および脾の運化障害により生じる証で、摂食不能による空腹感、いそうおよび倦怠感を特徴とする。
2.9.44	脾陽虚證; 脾陽虧虚證; 脾虚寒證	spleen yang deficiency pattern/	脾陽虚證		陽気不足により、脾を温め活性化できないことに起因する証で、通常、四肢の冷え、腹部の冷えおよび疼痛、厭食、腹満、久泄、倦怠感、いそうおよび水腫が発現する。spleen deficiency cold pattern/syndromeと同義。
2.9.44	脾陽虚證; 脾陽虧虚證; 脾虚寒證	spleen yang deficiency pattern/	脾陽虧虚證		陽気不足により、脾を温め活性化できないことに起因する証で、通常、四肢の冷え、腹部の冷えおよび疼痛、厭食、腹満、久泄、倦怠感、いそうおよび水腫が発現する。spleen deficiency cold pattern/syndromeと同義。
2.9.44	脾陽虚證; 脾陽虧虚證; 脾虚寒證	spleen yang deficiency pattern/	脾虚寒證		陽気不足により、脾を温め活性化できないことに起因する証で、通常、四肢の冷え、腹部の冷えおよび疼痛、厭食、腹満、久泄、倦怠感、いそうおよび水腫が発現する。spleen deficiency cold pattern/syndromeと同義。
2.9.45		pattern/syndrome of spleen failing to control the blood	脾不統血證		脾気が弱いために血を制御できないときに生じる証で、紫斑、女性の崩漏など、種々の慢性出血とともに、面色萎黄、厭食、下痢、倦怠感、乏力、短気、話すのが億劫、淡白舌および弱脈が認められる。
2.9.46	脾虚氣陷證; 脾氣下陷證	sunken spleen qi pattern/syndrome	脾虚氣陷證		長後に頭重なり、心窩部が下垂する感じ、または肛門が下垂する感じを伴う頻繁な便意切迫または持続性の久泄、または直腸脱および子宮脱とともに、短気、倦怠感、話すのが億劫、めまい、白苔を伴う淡白舌、および緩・弱脈を特徴とする証。pattern/syndrome of spleen deficiency with sunken qiと同義。
2.9.46	脾虚氣陷證; 脾氣下陷證	sunken spleen qi pattern/syndrome	脾氣下陷證		長後に頭重なり、心窩部が下垂する感じ、または肛門が下垂する感じを伴う頻繁な便意切迫または持続性の久泄、または直腸脱および子宮脱とともに、短気、倦怠感、話すのが億劫、めまい、白苔を伴う淡白舌、および緩・弱脈を特徴とする証。pattern/syndrome of spleen deficiency with sunken qiと同義。
2.9.47		pattern/syndrome of spleen deficiency with dampness	脾虚濕困證		心窩部膨満、食欲不振、腹鳴、泄瀉、悪心、口渴はあるが飲水欲はない、倦怠感、および顆粒が密な滑苔を特徴とする証。pattern/syndrome of spleen deficiency with dampness accumulationと同義。
2.9.48		pattern/syndrome of spleen deficiency with stirring of wind	脾虚動風證		四肢の顫震または抽搐とともに、摂食量減少、腹部膨満、下痢、倦怠感、乏力、面色蒼白、淡白舌および弱脈を特徴とする証。
2.9.49		pattern/syndrome of spleen deficiency with water flood	脾虚水泛證		顔および四肢の水腫または腹水とともに、摂食量減少、腹部膨満、便溏、倦怠感、乏力、面色蒼白、白・滑苔を伴う膨らんだ淡白舌および濡・弱脈を特徴とする証。
2.9.50	寒濕困脾證; 濕困脾陽證	pattern/syndrome of cold-dampness encumbering the spleen	寒濕困脾證		心窩部・腹部膨満、口のねばつきおよび食べても味が無い、悪心、下痢、頭部および身体が重い感じ、くすんだ黄色の変色が見られる黄疸、白膩苔を伴う膨らんだ淡白舌および弛緩した濡脈を特徴とする証。
2.9.50	寒濕困脾證; 濕困脾陽證	pattern/syndrome of cold-dampness encumbering the spleen	濕困脾陽證		心窩部・腹部膨満、口のねばつきおよび食べても味が無い、悪心、下痢、頭部および身体が重い感じ、くすんだ黄色の変色が見られる黄疸、白・膩苔を伴う膨らんだ淡白舌および濡・緩脈を特徴とする証。